

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	VAO11	修学基礎	1	1	必修	1	月2 (春)講堂他	伊藤和之 宮城愛美 金堀利洋	大学生生活のスタートにあたり、大学で学ぶ意義、効果的な学修方法、進路選択、相互理解と集団の形成、心身の健康管理、安全な生活の進め方などを学ぶ。学内の施設・設備の概要を理解し積極的に活用する方法を身に付ける。また履修申請や履修計画、課題提出方法等について理解し、円滑な学修方法について理解を深める。討論、発表、共同作業などの多様な活動を通して、学生間および教員とのコミュニケーションの意義を知り、その方法を習得する。さらに、視覚障害者が利用できる制度やサービスの基本を学ぶ。また、聴覚障害コースのクラスメイトとのコミュニケーション活動を実施し、聴覚障害および聴覚障害者について理解を深める。	視覚対象 保健1H102、 1H103と合同
	HAO21	修学基礎	1	1	必修	1	水4,5 集中 (天)214 (天)体育館 他	小林洋子 中島幸則 新井達也 向後佑香 神村幸蔵 田中豊大	大学生生活のスタートにあたり、大学で学ぶ意義、効果的な学修方法、進路選択、相互理解と集団の形成、心身の健康管理、安全な生活の進め方などを学ぶ。学内の施設・設備の概要を理解し、積極的に活用する方法を身に付ける。また、履修申請や履修計画、課題提出方法等を含む円滑な学修方法について理解を深める。討論、発表、共同作業などの多様な活動を通して、学生間および教員とのコミュニケーションの意義を知り、その方法を習得する。また、視覚障害コースのクラスメイトとのコミュニケーション活動を通して、視覚障害および視覚障害者について理解を深める。	聴覚対象 産業SA541、 SH501と合同
	VAO31	心理学	2	1・2	選択	1	木3 (春)316	竹下 浩	心理学は、ヒトの心（他者からは観察不能）と行動（他者が観察可能）のメカニズムを、科学的な方法で探求する学問である。まず導入部では、心理学の過去と歴史を概観し、研究手法や統計的処理について基本を理解する。続く本論部分では、心と行動の基本的な働きを理解していく。ヒトは、外界の情報をどう入力・処理するのか（感覚と知覚）。自己や個性はどのように形成されるのか（記憶・感情・パーソナリティ）。心理的な発達とは、どのようなものなのか（学習・発達）。我々は、社会や他者の存在からどのような影響を受けて、一方で社会に影響するのだろうか（社会・文化・犯罪）。この講義を受けることで、リハビリ・エンジニア・事務系などの職種を問わず、現場で困難や疑問に直面した時に、状況の改善に役立つ見立てを考え付き、打ち手を試すことが出来るようになる。	視覚対象 保健1H400と 合同

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	HA041	心理学	2	1・2	選択	1	月2 (天)プレゼンテーションルーム	長南浩人	本授業では、心理学の各分野の基礎知識を学び、かつ心理学的な思考方法や調査、実験方法に触れることで、日常生活における心理現象の理解と心理学的課題の解決能力の習得を目的とする。	聴覚対象 産業SA031、SH031と合同
	VA051	哲学	2	1・2	選択	1	集中 (春)316	非) 川井博義	私たちは普段「正しい」「善い」「美しい」という言葉を何気なく使う。では、どうしてそう言えるのだろうか。その答えは、世界や人間をどのようにとらえるか、人生をどのように考えるのかという、ものごとの見方や考え方によって変わる。本科目では、西洋の古代～現代、東洋・日本の哲学・思想を学ぶ。それは単なる知識の習得ではなく、先人との対話である。また、様々な哲学的テーマをめぐり、履修者が意見・感想を示すことで、仲間との対話も行う。このように、先人や仲間との対話を通じて、自分自身や現在の常識を問い直すことができることが、本科目の特色である。それは、物事の本質や根本を問う姿勢を身につけることにもつながる。同時に、現代を生きる私たちの問題を発見し、その解決への糸口を模索する実践的経験にもなる。	詳細は後日掲示 視覚対象 保健1H410と合同
	HA061	哲学	2	1・2	選択	1	木2 (天)507	非) 上田徹	哲学的人間学の観点から、人間を全体像として理解するよう試みる。生物学的・社会的・経済学的立場から見られたこの世界における人間の位置づけを検討し、特に技術と人間の間で生ずる現代の病を考える。	聴覚対象 産業SA011、SH011と合同

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	VA071	経済学	2	1・2	選択	2	木2 オンライン (春)231	非) 篠塚友一	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習する。二国間で貿易を行うことから、両国とも利益を得ることができることを理解し、モノ（財・サービス）の値段（価格）がどのように決まり、モノの値段の動きを決める要因についての理解を深める。国内総生産や物価によって経済全体の動きを理解する。	視覚対象 HA081、産業 SA051、 SH051と合同
	HA081	経済学	2	1・2	選択	2	木2 オンライン	非) 篠塚友一	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習する。二国間で貿易を行うことから、両国とも利益を得ることができることを理解し、モノ（財・サービス）の値段（価格）がどのように決まり、モノの値段の動きを決める要因についての理解を深める。国内総生産や物価によって経済全体の動きを理解する。	聴覚対象 VA071、産業 SA051、 SH051と合同
	VA091	歴史学	2	1・2	選択	1	木2 オンライン	非) 高野友理 香	イエズス会の宣教師ルイス・フロイスが16世紀日本について叙述した『日本史』『日欧文化比較』『日本二十六聖人殉教記』の検討を通じて、歴史学研究の基本的手法を学んでいく。大航海時代や織豊期の日本に関する前提知識・歴史学における現代的課題についても取り扱う。	視覚対象 詳細は後日揭示 HA101、産業 SA021、 SH021と合同
	HA101	歴史学	2	1・2	選択	1	木2 (天)プレゼン テーション ルーム	非) 高野友理 香	イエズス会の宣教師ルイス・フロイスが16世紀日本について叙述した『日本史』『日欧文化比較』『日本二十六聖人殉教記』の検討を通じて、歴史学研究の基本的手法を学んでいく。大航海時代や織豊期の日本に関する前提知識・歴史学における現代的課題についても取り扱う。	聴覚対象 VA091、産業 SA021、 SH021と合同

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	VA111	文学	2	1・2	選択	2	木2 (春)316	伊藤和之	文学とは、言語によって表現された芸術である。すなわち、人間は如何に生き、如何に外界を認識し、交わり、死んでいくのかといったテーマに、言葉のみを用いて応える芸術である。そして、文学研究とは人間を研究する学問である。文学研究の方法には、作家・作品論、テクスト論があり、精神医学分野には、作家の精神疾患と作品との関係を考究する病跡学の知見が存在する。 本授業では、主として詩歌、物語、紀行、小説など、日本文学の諸作品、特に、いわゆる社会的弱者の描写を題材として取り上げ、どのような研究がなされているかを紹介する。そして、文学に関わる人間、すなわち作者、登場人物、読者の視点から多面的に捉える視座を得ること、一つの文学作品に対する自らの読解や理解が、数ある中の一つである認識を持ち、文学を通して人間の多様性を理解することを目標としている。授業は、講義、ディスカッション、ゲストスピーチなどで構成する。また、他授業科目の関連を意識し、教養の有用性について伝える。	視覚対象
	HA121	文学	2	1・2	選択	2	水3 (天)R201	伊藤和之	文学とは、言語によって表現された芸術である。すなわち、人間は如何に生き、如何に外界を認識し、交わり、死んでいくのかといったテーマに、言葉のみを用いて応える芸術である。そして、文学研究とは人間を研究する学問である。文学研究の方法には、作家・作品論、テクスト論があり、精神医学分野には、作家の精神疾患と作品との関係を考究する病跡学の知見が存在する。 本授業では、主として詩歌、物語、紀行、小説など、日本文学の諸作品、特に、いわゆる社会的弱者の描写を題材として取り上げ、どのような研究がなされているかを紹介する。そして、文学に関わる人間、すなわち作者、登場人物、読者の視点から多面的に捉える視座を得ること、一つの文学作品に対する自らの読解や理解が、数ある中の一つである認識を持ち、文学を通して人間の多様性を理解することを目標としている。授業は、講義、ディスカッション、ゲストスピーチなどで構成する。また、他授業科目の関連を意識し、教養の有用性について伝える。	聴覚対象
	VA131	情報と社会環境	2	1・2	選択	2	月2 (春)講堂	堀江則之	情報通信技術（ICT）の進歩が、経済、経営、産業、政策、地方自治、生活、コミュニケーション、法律、国際関係などにもたらしている変化を知り、持続可能な情報社会について展望する講義である。 「情報」と「社会環境」をキーワードとして、情報社会は、私たちに何をもたらし、今後はどのように変化していくのであろうか。具体的かつ分かりやすい事例を適時紹介していくとともに、授業ごとに課す課題に取り組むことによって、情報通信技術が情報社会に与える影響について理解を深める。	視覚対象 保健1H220と 合同

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	HA141	情報と社会環境	2	1・2	選択	2	木4 (天)214	河野純大 加藤伸子 皆川洋喜 若月大輔 渡辺知恵美 黒木速人 倉田成人 山脇博紀 郭 龍旻 鈴木拓弥 櫻庭晶子 北橋主税 辻田容希	私たちは、現代社会の様々なコミュニケーション環境を通して常に情報の受発信を行っている。また、自立して社会へ巣立ってゆく学生たちは、いずれは企業・組織の一員となるか、何らかの局面で企業・組織との関わりを持つことになる。本講義では、コミュニケーション体験などを通して、自分自身のコミュニケーション特性を説明できる能力の習得を目指す。また、社会環境としての企業の歴史や社会的責任、組織で求められる能力や社会ニーズについての理解を深める。	聴覚対象 産業SA721、SH711「企業・社会への参加とコミュニケーション」と合同
	VA151	言語学概論	2	1・2	選択	2	水4 (春)331	小林ゆきの	普段何気なく使用している言語について科学的にアプローチし、言語の不思議を紐解いていく。言語の仕組みから学際的な内容までを広く学び、言語に関する理解を深める。	視覚対象
	HA161	言語学概論	2	1・2	選択	2	火2 (天)214	神村幸蔵	本学学生になじみのある日本語、英語、手話言語の例を中心に、言語の仕組みや言語と社会に関する諸学問を学修し、我々がふだん使っている言語とは何かについて理解し、説明することができるようになることを目的とする。	聴覚対象 産業SA701、SH691と合同
	VA171	法律学	2	1・2	選択	1	金5 オンライン	非) 岡田大助	「社会あるところに法あり」といわれるとおり、社会が存在すればそこには法も必ず存在する。それゆえ、法律学を学ぶことは、日本社会を構成するすべての人々にとって必要不可欠になる。本講義の目的は、履修者が法の基礎を理解し、法の体系性を意識し、そして具体的な事例を考えられることにより、法律学の場面だけで役立つのではなく、将来的に社会で役立てることができるリーガルマインド（法的思考力）の素養を身に付けることである。	視覚対象 HA181、産業SA041、SH041と合同

教養教育系科目

(1) 総合教養教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
総合教養教育科目	HA181	法律学	2	1・2	選択	1	金5 オンライン	非) 岡田大助	「社会あるところに法あり」といわれるとおり、社会が存在すればそこには法も必ず存在する。それゆえ、法律学を学ぶことは、日本社会を構成するすべての人々にとって必要不可欠になる。本講義の目的は、履修者が法の基礎を理解し、法の体系性を意識し、そして具体的な事例を考えられることにより、法律学の場面だけで役立つのではなく、将来的に社会で役立てることができるリーガルマインド（法的思考力）の素養を身に付けることである。	聴覚対象 VA171、産業SA041、SH041と合同
	VA191	社会学	2	1・2	選択	2	木1 オンライン (春)231	非) 庄司俊之	社会学という学問分野は近代化とともに誕生した。社会の急速な変貌を目の当たりにした人々は、そもそも社会とは何か、我々の社会は今どういう地点に立っているのか、そして一体どこへ向かっているのかと問い掛けたのだ。本講義ではマルクス、デュルケム、ウェーバー、フーコーなど、「現代社会論としての社会学」の古典を概説する。これら古典の学びは現在の状況を理解する上でも基礎的な教養となるだろう。	視覚対象 HA201、産業SA061、SH061と合同
	HA201	社会学	2	1・2	選択	2	木1 (天)214	非) 庄司俊之	社会学という学問分野は近代化とともに誕生した。社会の急速な変貌を目の当たりにした人々は、そもそも社会とは何か、我々の社会は今どういう地点に立っているのか、そして一体どこへ向かっているのかと問い掛けたのだ。本講義ではマルクス、デュルケム、ウェーバー、フーコーなど、「現代社会論としての社会学」の古典を概説する。これら古典の学びは現在の状況を理解する上でも基礎的な教養となるだろう。	聴覚対象 VA191、産業SA061、SH061と合同
	VA211	日本国憲法	2	1・2	選択	2	集中 (春)536 オンライン	非) 岡田大助	憲法は、つくるべき社会の設計図として制定される一国の最高法規であり、国家・社会を維持・発展させていくための見取り図の役割を果たすものである。それゆえ、日本国憲法を学習することは、日本社会を構成するすべての人々にとって必要不可欠になる。本講義の目的は、履修者が日本国憲法に対する輪郭を構築し、基本概念を理解し、そして将来的に社会で役立てることができるリーガルマインド（法的思考力）の素養を身に付けることである。	視覚対象 詳細は後日揭示 HA221、保健1H430、産業SA071、SH071と合同
	HA221	日本国憲法	2	1・2	選択	2	集中 オンライン	非) 岡田大助	憲法は、つくるべき社会の設計図として制定される一国の最高法規であり、国家・社会を維持・発展させていくための見取り図の役割を果たすものである。それゆえ、日本国憲法を学習することは、日本社会を構成するすべての人々にとって必要不可欠になる。本講義の目的は、履修者が日本国憲法に対する輪郭を構築し、基本概念を理解し、そして将来的に社会で役立てることができるリーガルマインド（法的思考力）の素養を身に付けることである。	聴覚対象 詳細は後日揭示 VA221、保健1H430、産業SA071、SH071と合同

教養教育系科目
 (2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
語学教育科目	VBO11	英語 A	1	1	必修	1	[Regular] 金2 [Advanced] 水3 (春)331	小林ゆきの	これまで学んできた断片的な英語に関する知識と能力を統合し、アウトプットを意識した、より実践的な英語力を修得していく。最初の数回では、英語と日本語の構造的、意味的、音声的な違いにフォーカスを当て、英語の基本となる語順、音素、リズムを学修する。それらをもとに、科学的・社会的な記事や音声・映像をベースとした教材を用いて構文分析やペアワークを行い、学んだ語彙や文法知識を直接会話に活かす練習をし、アウトプット力を強化する。基本教材の他に自宅学習用にシャドーイング教材を用いて日々の反復練習を促し、英語感覚を体得できるようにする。単語テストを随時行い、語彙力も強化していく。	視覚対象 保健3H102、 3H103と合同
	HBO21	英語 A	2	1	必修	1	火3 (天)214 水2 (天)215	神村幸蔵 田中豊大	基礎的な英語力の養成を目標として、講読と表現の学習を行う。講読では自然科学を含む現代的トピックを扱い、表現では身近なことを英語で書き表すこと及び言い表すことを演習形式で指導する。具体的に、この授業は、(1)テキストや配布資料による一斉授業、(2)ペアやグループによる活動を実施する。(1)では、講読と表現の学習を通じて基礎的な英語力を身につける。(2)では、他の受講生との協働を通して、英語を理解したり使ったりする活動を行う。	聴覚対象 産業SA111、 SH111と合同
	VBO31	英語 B	1	1	必修	2	[Regular] 火2 [Advanced] 水3 (春)331	小林ゆきの	英語Bでは、英語Aに続き、これまで学んできた断片的な英語に関する知識と能力を統合し、アウトプットを意識した、より実践的な英語力を修得していく。科学的・社会的な記事や音声・映像をベースとした教材を用いて構文分析やペアワークを行い、学んだ語彙や文法知識を直接会話に活かす練習をし、アウトプット力を強化する。基本教材の他に自宅学習用にシャドーイング教材を用いて日々の反復練習を促し、英語感覚を体得できるようにする。単語テストを随時行い、語彙力も強化していく。	視覚対象 保健3H112、 3H113と合同
	HBO41	英語 B	2	1	必修	2	火3 (天)214 水2 (天)215	神村幸蔵 田中豊大	英語Aに引き続き、基礎的な英語力の養成を目標として、講読と表現の学習を行う。講読では自然科学を含む現代的トピックを扱い、表現では身近なことを英語で書き表すこと及び言い表すことを演習形式で指導する。具体的に、この授業は、(1)テキストや配布資料による一斉授業、(2)ペアやグループによる活動を実施する。(1)では、講読と表現の学習を通じて基礎的な英語力を身につける。(2)では、他の受講生との協働を通して、英語を理解したり使ったりする活動を行う。	聴覚対象 産業SA151、 SH151と合同

教養教育系科目
 (2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
語学教育科目	VB052	英語 C	1	2	選択	1	金3 (春)331	小林ゆきの	これまで修得してきた英語力を駆使して、Critical Thinking（批判的思考）とはどのようなものかを、入門的英語教材を通して学ぶ、Content-based（内容重視型）の授業である。英語を手段としてCritical Thinking（内容）を学ぶことで、英語の4技能を効果的・統合的に伸ばし、かつ、大学生として必要な、論理的・批判的思考を身に付けていくことを狙いとする。また、これと並行して毎週小テストを行い、実践的な英語表現を身につけていく。	視覚対象 保健3H120と合同
	HB062	英語 C	2	2	選択	1	火2 (天)215 水3 (天)D101	神村幸蔵 田中豊大	この授業は、（1）テキストや配布資料による一斉授業、（2）ペアやグループによる活動を実施する。 （1）では、本文の読解や問いへの解答を確認・解説する。 （2）では、他の受講生との協働を通して、英語を理解したり使ったりする活動を行う。	聴覚対象 産業SA191、 SH191、 SA211、 SH211、 SA221、 SH221と合同
	VB072	英語 D	1	2	選択	2	金3 (春)331	小林ゆきの	「英語C」に続き、これまで修得してきた英語力を駆使して、Critical Thinking（批判的思考）とはどのようなものかを、入門的英語教材を通して学ぶ、Content-based（内容重視型）の授業である。英語を手段としてCritical Thinking（内容）を学ぶことで、英語の4技能を効果的・統合的に伸ばし、かつ、大学生として必要な、論理的・批判的思考を身に付けていくことを狙いとする。また、これと並行して毎週小テストを行い、実践的な英語表現を身につけていく。	視覚対象 保健3H130と合同
	HB082	英語 D	2	2	選択	2	水3 (天)215 火2 (天)215	神村幸蔵 田中豊大	英語を通じて人文・科学の問題を広く修習し、critical thinking を育てる。また、文章読解から幅広いReading、Writing スキル、並びにプレゼン力を身につける。	聴覚対象 産業SA231、 SH231と合同

教養教育系科目
(2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
語学教育科目	VB091	オーラルコミュニケーションA	1	1	必修	1	[Regular] 火4 (春)536 [Advanced] 水4 (春)331	非) CatherineVivarO da 非) Viktoriya Nikolova	[Regular] 「Listening」・「speaking」を重視した授業を行い、日常語彙や表現を増やし、自ら英語を発する訓練を行い、英会話技術の習得を目指す。授業では学生たちにペア・グループを組んでもらい、日常英会話、発表の練習を行う。学期末には各自口頭試験を行う。授業中使用される言語は主に英語である。また、前もって発表のための準備をEnglish Lounge等のクラス外でもしっかりと行うこと。 [Advanced] 本授業では、英語のListeningとSpeakingを中心に、これまで学んできた英語の知識を総合的に補いながら、それを活かしたコミュニケーション能力の上達を目的とする。教員の指導のもとで多様なactivityに取り組むことで、自己表現力・他者理解力の鍛錬を目指し、より豊かな言語能力を身に付けていく。授業は主に英語で行う。なお、教員から与えられた課題やプレゼンなどの準備は各自でしっかり行うこと(English Loungeの活用を推薦)。	視覚対象 水4 保健3H202、 3H203と合同
	VB101	オーラルコミュニケーションB	1	1	必修	2	[Regular] 木5 (春)331 [Advanced] 火5 (春)536	非) CatherineVivarO da 非) Viktoriya Nikolova	[Regular] 「Listening」・「speaking」を重視した授業を行い、日常語彙や表現を増やし、自ら英語を発する訓練を行い、英会話技術の習得を目指す。授業では学生たちにペア・グループを組んでもらい、日常英会話、発表の練習を行う。学期末には各自口頭試験を行う。授業中使用される言語は主に英語である。また、前もって発表のための準備をEnglish Lounge等のクラス外でもしっかりと行うこと。 [Advanced] 本授業では、英語のListeningとSpeakingを中心に、これまで学んできた英語の知識を総合的に補いながら、それを活かしたコミュニケーション能力の上達を目的とする。教員の指導のもとで多様なactivityに取り組むことで、自己表現力・他者理解力の鍛錬を目指し、より豊かな言語能力を身に付けていく。授業は主に英語で行う。なお、教員から与えられた課題やプレゼンなどの準備は各自でしっかり行うこと(English Loungeの活用を推薦)。	視覚対象 保健3H212、 3H213と合同
	VB112	オーラルコミュニケーションC	1	2	選択	1	火3 (春)316	非) Viktoriya Nikolova	本授業では、英語のListeningとSpeakingを中心に、これまで学んできた英語の知識を総合的に補いながら、それを活かしたコミュニケーション能力の上達を目的とする。教員の指導のもとで、特定のトピックについて意見交換やディスカッションに取り組むことで、自己表現力・他者理解力の鍛錬を目指し、より豊かな言語能力を身に付けていく。 授業は主に英語で行う。なお、教員から与えられた課題や発表などの準備は各自でしっかり行うこと(English Loungeの活用を推薦)。	視覚対象 保健3H220と合同

教養教育系科目
 (2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
語学教育科目	VB122	オーラルコミュニケーションD	1	2	選択	2	火3 (春)331	非) Viktoriya Nikolova	本授業では、英語のListeningとSpeakingを中心に、これまで学んできた英語の知識を総合的に補いながら、それを活かしたコミュニケーション能力の上達を目的とする。教員の指導のもとで、特定のトピックについて意見交換やディスカッションに取り組むことで、自己表現力・他者理解力の鍛錬を目指し、より豊かな言語能力を身に付けていく。 授業は主に英語で行う。なお、教員から与えられた課題や発表などの準備は各自でしっかり行うこと(English Loungeの活用を推薦)。	視覚対象 保健3H230と合同
	VB131	日本語表現法A	1	1	必修	1	金1 (春)316	伊藤和之	言語は、語彙が最も変化しやすく、次が文法で、音韻が最も変わりにくいと言われる。私たちは、日常、酸素を吸い、二酸化炭素を吐き出すように、言葉を使用している。しかし、言葉の変化、自らの言語生活、又言葉そのものに対して疑問を抱く、内省するという経験や時間は決して多くはない。「読む」「聞く」「書く」「話す」ために用いる言葉に対して意識を向け、日常に活かす素養と態度を保つ努力は、個の人生及び社会の財産となり得る。 本授業では、日本語の歴史を基底に、日本語の音、文字・表記、敬語、方言について、網羅的に学習する。具体的には、音韻と語感、文字の表意性と表音性、句読点、待遇表現と敬意表現、方言などに関する知識を深め、日本語の特徴を理解する。得られた知識から、他者とのコミュニケーション及び日本語表記を行う上での留意点や知識の活用方法を主体的に考え、豊かな言葉の遣い手として言語生活を営む資質を身に付ける。また、他授業科目の関連を意識し、教養の有用性について伝える。	視覚対象 保健3H402、3H403「文章技法1」と合同
	HB141	日本語表現法A	1	1	必修	1	火1 (天)213	非) 脇中起余子 神村幸蔵	話しことばと書きことばは別物である。「日本語表現法A」では、書記日本語を書く力の養成に重点を置く。語彙を拡げ、誤解のない文を作り、目的に応じた適切な表現ができるようになることを主要目的とする。 下記の「授業計画」で記した内容以外に、文作成に必要な助詞(特に格助詞)の問題を不定期に出し、問題の一部を解説する。	聴覚対象 産業SA361、SH361と合同

教養教育系科目
 (2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
語学教育科目	VB151	日本語表現法B	1	1	必修	2	金1 (春)316	伊藤和之	言語は、語彙が最も変化しやすく、次が文法で、音韻が最も変わりにくいと言われる。私たちは、日常、酸素を吸い、二酸化炭素を吐き出すように、言葉を使用している。しかし、言葉の変化、自らの言語生活、又言葉そのものに対して疑問を抱く、内省するという経験や時間は決して多くはない。「読む」「聞く」「書く」「話す」ために用いる言葉に対して意識を向け、日常に活かす素養と態度を保つ努力は、個の人生及び社会の財産となり得る。 本授業では、日本語の機能、文法、意味・語彙、文章・文体について、網羅的に学習する。 日本語表現法Aは、主として話しことばの知識を深める意図がある。それに対して、本授業は、主として書きことばの知識を深める意図がある。他者、すなわち社会の眼や読解を意識した文章技法に焦点を当て、自身で作成した手紙や電子メールを推敲する、レポート及び論文作成などの基礎を身に付けるなど、実践を通して理解を深める。また、他授業科目の関連を意識し、教養の有用性について伝える。	視覚対象 保健3H412、 3H413「文章技法2」と合同
	HB161	日本語表現法B	1	1	必修	2	火1 (天)213	非)脇中起余子 神村幸蔵	「日本語表現法B」では、論文執筆に必要な日本語力の養成に重点をおく。誤解のない客観的・論理的な文章とは何かを理解し、論文執筆に必要な基本スキルを身につけることを主要目的とする。 シラバスの「授業計画」で記した内容以外に、文章作成に必要な助詞や接続詞の問題を不定期に出し、問題の一部を解説する。	聴覚対象 産業SA401、 SH401と合同
	VB171	中国語1	1	1	選択	1	水5 (春)331	非)大森真理 (李立冰)	この授業では、中国語の発音からはじめ、文法の基礎を一通り学習すると共に、読む・書く・聞く・話す全般にわたって基礎力を養う。 1学期では、発音の基礎と簡単な日常会話の表現を学ぶ。自己紹介ができるような総合的な中国語を学ぶ。	視覚対象 保健3H300と合同
	VB181	中国語2	1	1	選択	2	水5 (春)311	非)大森真理 (李立冰)	この授業では、第1学期で学んだ中国語の発音から復習しはじめ、引き続き文法の基礎を一通り学習すると共に、読む・書く・聞く・話す全般にわたって基礎力を養う。 2学期では、1学期で学んだものを全体的に復習し、引き続き基本文型・文法事項を学び、辞書を引いて簡単な文章の読み書きができるような総合的な中国語を学ぶ。	視覚対象 保健3H310と合同

教養教育系科目
 (2) 語学教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
手話言語科目	HC011	手話コミュニケーション入門	2	1	選択必修	1	月3 (天)213	小林洋子	大学生活に必要な手話コミュニケーション力を身につけることを大きなねらいとし、日本語の指文字、日本手話言語の基本的な語彙と文法を学ぶ。また、プレゼンテーション技術(読取、表現)の基本的な練習にも力を入れる。	聴覚対象 産業SA331、SH331と合同
	HC021	日本手話言語基礎	2	1	選択必修	2	月1 (天)214 または 月3 (天)214	小林洋子 大杉 豊	コミュニケーション手段の一つである手話言語を一度見つめ直すことを目的に、世界中に見られる身振り体系のコミュニケーションシステムを分類して解説し、手話言語を単語レベルで分析する技術を習得した上で、職場や教育現場、日常生活における身振り言語の活用を考える。	聴覚対象 産業SA341、SH341と合同
	HC031	手話コミュニケーション演習	1	1	選択	2	月3 (天)213	小林洋子	日本手話言語を使ったプレゼンテーション技術(読取、表現)の応用的な練習を主とする演習を行い、大学生活に必要な手話コミュニケーション力の増強を図る。	聴覚対象 産業SA351、SH351と合同
	HC041	アメリカ手話言語1	1	1	選択	1	月2 (天)213 (天)214	小林洋子 大杉 豊	異文化コミュニケーションの能力を高めることを大きなねらいとし、米国などで使用されているアメリカ手話言語の基礎レベルを学習し、ビデオなどで米国のろう者の手話言語表現・生活文化に触れながら、身近な出来事についてアメリカ手話言語で会話でき、かつ自分の意見を表現できるよう指導する。	聴覚対象 産業SA311、SH311と合同
	HC051	アメリカ手話言語2	1	1	選択	2	月2 (天)213 (天)214	小林洋子 大杉 豊	異文化コミュニケーションの能力を高めることを大きなねらいとし、米国などで使用されているアメリカ手話言語の基礎レベルを学習し、ビデオなどで米国のろう者の手話言語表現・生活文化に触れながら、身近な出来事についてアメリカ手話言語で会話でき、かつ自分の意見を表現できるよう指導する。	聴覚対象 産業SA321、SH321と合同

教養教育系科目

(3) 健康・スポーツ教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
健康スポーツ教育科目	VDO11	健康・スポーツA	1	1	必修	1	月4 (春)体育館 (春)プール 他	天野和彦 渕上真帆	大学生生活のスタートに当たり、健康で活力ある学生生活を送るために必要となる健康や体力に関する理論を学修するとともに、スポーツの実践や体力テストの実施を通して自分の身体について理解し、自己に適したスポーツの理解と健康・体力づくりの方法を学修する。また、視覚障害者が実施しているスポーツの概要を知る。運動・スポーツ活動や健康づくりと視覚障害の特徴の関連を、国内外で実践されている視覚障害スポーツ（フロアバレーボール、サウンドテーブルテニス、ゴールボール、ブラインドサッカー、ブラインドテニス、フライングディスク等）の実践によって実体験として理解する。また、クラスメイトとチームで活動することで、チームワークやリーダーシップ、フォロワーシップを体験的に学ぶ。また視覚障害が自己の体力や健康にどのように影響するのか、体力テストや体格測定の実施により理解する。夏季（7月）は水中活動を実践し、スキンドайビングやカヌーといったマリンスポーツの基礎を習得する。さらに着衣泳の実習により、水の事故に対する知識・技術を学習する。これらの実習や講義によって、自己の健康や体力に関する意識を高め、主体的に行動できる能力を身に付ける。	視覚対象
	HDO21	健康・スポーツA	1	1	必修	1	木3 (天)体育館 (天)215	向後佑香 中島幸則	この授業では、「身体と健康」をキーコンセプトに内容を構成する。具体的には健康論、体力論、トレーニング理論等、健康科学分野の理論をベースに、運動の必要性、エネルギー消費、身体組成、運動と栄養、スポーツの怪我、突然死等に関する内容を学習する。学習にあたっては、自らの身体を用いてさまざまな測定を行なうことによって、内容の理解を深める。また、障がい者スポーツの意義と理念、そして、諸施策についての理解を深める。	聴覚対象 産業SA451と 合同

教養教育系科目

(3) 健康・スポーツ教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
健康スポーツ教育科目	VD031	健康・スポーツB	1	1	必修	2	火3 (春)体育館 (春)プール 他	天野和彦 向後佑香 淵上真帆	各種スポーツの実践を通してスポーツ技能の向上を図り、自己に適したスポーツや運動を理解し自主的に実践していく能力や態度を身につける。この授業では、以下の種目を個々の習熟状況に応じて実践することにより、視覚障害があっても、晴眼者が実施している種目を実施することができること、さらに晴眼者でも普段なかなか体験できない種目を実践することができる経験を通して、自己の視覚障害の状況とスポーツの実施に関する知識や意識、意欲を深める。また各種目の実施を通して、運動技能、特に空間との関係における自身の身体操作の方法を学習する。これらの活動を通して、自己に適したスポーツや運動を理解する。さらに、スポーツ外傷・障害や応急処置、AEDの使い方を実習し、安全にスポーツ活動を実施するための知識と技術を身に付ける。以上のような活動を通して、視覚障害者スポーツやアダプトッド・スポーツについての理解を深める。	視覚対象
	HD041	健康・スポーツB	1	1	必修	2	木3 (天)体育館 (天)215	向後佑香 中島幸則	この授業では、各種の運動・スポーツ実践を通して、運動やスポーツに対する好意的態度を育成し、仲間とのコミュニケーションを深めるとともに、それぞれのライフステージにおいて自己の健康維持と体力増進を可能とする知識を深める学習を行う。	聴覚対象 産業SA471と 合同
	VD052	健康・スポーツC	1	2	選択	1	金2 (春)体育館 他	天野和彦 淵上真帆	健康・スポーツAと同様に、自らの体力状況を把握し、大学入学後の変化を理解することで、自己の体力の現状と課題を理解する。また、フライングディスク、ディスクゴルフ、グランドソフトボール等の球技種目を実践し、各自の技術レベルに応じて技能の向上を図るとともに、それらのスポーツのルールやマナーを学習し、文化としてのスポーツに関して理解を深める。また、スポーツ活動と健康の維持・増進の関係についても認識を高める。夏季は(7月)はプールにおける水中活動を行い、各自の泳力を高めつつ、泳力に応じた活動方法を習得する。以上のような活動を通して、教養としてのスポーツ理論および技能の向上を図り、スポーツを自らの生活に取り入れることができる能力を養う。また生涯にわたっての自分視覚障害者としての自己とスポーツの関係やあり方の思考を深める。	視覚対象 保健5H120 「健康・スポーツ3」と合同
	HD062	健康・スポーツC	1	2	選択	1	金2 (天)体育館 (天)216 他	中島幸則 向後佑香	健康スポーツAと同様に、自らの運動能力を知ることから始め、入学後1年間の自分の行動を振り返る。その後はラケットスポーツやボールゲームを行い、健康の維持・増進に繋げていくとともに、個々のレベルにあった技術の向上も狙う。また、チームスポーツを行う上での個々の役割を理解し、チームワークの大切さを学ぶことも目的とする。	聴覚対象 産業SA491と 合同

教養教育系科目

(3) 健康・スポーツ教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
健康スポーツ教育科目	VD072	健康・スポーツD	1	2	選択	2	月4 (春)体育館 他	天野和彦 淵上真帆	自己の体力・運動能力等の現状を把握した上で、健康・体力の維持・向上のためのストレッチング、レジスタンストレーニングやエンデュアランストレーニングの理論と技能を学習し、各自が目指す体力等向上のための目標設定と、達成のための実践を自主的、自立的に実施できる能力を授業を通して身に付け、実践を行う。運動処方に関する理論と実践方法を理解することで、生涯にわたって自分の健康・体力の向上を図る能力を習得することを目指す。また、授業期間の終了時には目標に対する達成度を自己評価し、実践の効果や課題を分析することで、健康・体力の維持・向上のためのPDCAサイクルを体験的に理解するとともに、日常生活に運動・スポーツを取り入れる意義を認識する。個々の状況に応じて活動することにより、現在はもとより生涯にわたっての自分とスポーツの関係やあり方を考える。	視覚対象
	HD082	健康・スポーツD	1	2	選択	2	金1 (天)体育館 (天)214 他	中島幸則 向後佑香 非) 齊藤まゆみ	フライングディスクやテニス・ボルダリングなどを取り上げ、安全かつ楽しく実施できる技術などについて学ぶとともに、全身持久力やバランス能力向上をねらう。	聴覚対象 産業SA501、 SH471と合同
	VD092	シーズンスポーツA	1	2	選択	1	集中	天野和彦 淵上真帆	学内外の施設を利用して集中形式で3日間、フリークライミングを行う。普段体験できないスポーツを実践してフリークライミングの仕組みや様々な登り方を理解し、技能の獲得を図るとともに、正しい用具の使い方を学習する。ボルダリングでは自己の体力や体格に応じた効率的な動きを習得する。また、ロープワークやハーネスの使用方法を学習し、ハーネスを着用して高所へのクライミングを実践し、技能の向上を図るとともに、自己の安全管理を自立的に実践する。また、ビレイの方法も習得し、ビレイヤー、バックビレイヤーとして活動し、クライミングにおけるチームワークや他者の活動を補助する重要性を理解する。授業の最後には各自の技能レベルに応じて設定された目標にチャレンジする。この体験を通して、視覚障害者のアウトドア活動としてのフリークライミングを理解し、自己の生涯スポーツとして位置づけ、実践する能力を養う。また、自然の中で活動する上での知識や行動原則を身につけ、自己の安全に対する配慮や活動中の事故予防について学習する。学外の施設での活動におけるルールやマナー、エチケットも学習する。	視覚対象 詳細は後日掲示
	HD102	シーズンスポーツA	1	2	選択	1	集中	向後佑香 中島幸則 天野和彦	自然環境の中でテント泊と野外炊事というキャンプ生活を過ごし、さまざまなアウトドアアクティビティに取り組みながら、自己の生活を振り替える機会とする。	聴覚対象 産業SA521、 SH481「アウトドアスポーツ」と合同

教養教育系科目

(3) 健康・スポーツ教育科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
健康スポーツ教育科目	VD112	シーズンスポーツB	1	2	選択	2	集中	天野和彦 淵上真帆	学内外の施設を利用して集中形式で行う。学内施設での授業については、日時の調整や個別での対応等、可能な限り柔軟に進める。本科目ではマリンスポーツ（カヌー等）を実施し、単に泳ぐということだけではなく、水辺での活動の広がりを体験する。自然の中で活動する上での知識や行動原則を身につけ、自己の安全に対する配慮や活動中の事故予防についても学習する。また、ルールやマナー、エチケットについても触れる。 さらに、この授業を通して、知識・技能の獲得を図ることに加え、マリンスポーツを生涯スポーツの一つとして捉え、実践していくことに繋げる。	視覚対象 詳細は後日掲示
	HD122	シーズンスポーツB	1	2	選択	2	集中	向後佑香 中島幸則 天野和彦	スノースポーツを生涯スポーツとしてとらえ、長期に渡り楽しくかつ安全に活動できるための知識・技術を習得する。また、集団生活における協調性、社会性を養い、冬の大自然を楽しむ。	聴覚対象 産業SA531、SH491「スノースポーツ」と合同

教養教育系科目

(4) データサイエンス科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報リテラシー科目 (視覚障害系)	VE011	情報基礎1	2	1	必修	1	水2 (春)536	金堀利洋 河原正治 木村知史	大学での学修に必要となる情報リテラシーに関する知識を習得することを目的とする。Windowsの基本操作から、電子メール、インターネットの使い方やマナーについて学修し、さらにワープロ操作や表計算ソフトの基本操作についても学修することで、大学のみならず社会に出てからも必要とされる文書作成・情報の収集/発信・データの集計の技術を身につける。	視覚対象
	VE021	情報基礎演習1	1	1	必修	1	火1 (春)536	金堀利洋 河原正治 木村知史	大学での学修に必要となる情報リテラシーに関する知識を習得することを目的とする。Windowsの基本操作から、電子メール、インターネットの使い方やマナーについて学修し、さらにワープロ操作や表計算ソフトの基本操作についても学修することで、大学のみならず社会に出てからも必要とされる文書作成・情報の収集/発信・データの集計の技術を身につける。	視覚対象
	VE031	情報基礎2	2	1	必修	2	月4 (春)536	金堀利洋 河原正治 木村知史	「情報基礎1」で学んだ基礎的な知識を発展させ、より実践的かつ高度な情報リテラシースキルの習得を目的とする。表計算ソフトの応用的操作に加え、プレゼンテーションソフトの基本操作について学修し、より高度なデータ集計/分析・プレゼンテーション資料の作成の技術を身につける。	視覚対象
	VE041	情報基礎演習2	1	1	必修	2	月5 (春)536	金堀利洋 河原正治 木村知史	「情報基礎1」で学んだ基礎的な知識を発展させ、より実践的かつ高度な情報リテラシースキルの習得を目的とする。表計算ソフトの応用的操作に加え、プレゼンテーションソフトの基本操作について学修し、より高度なデータ集計/分析・プレゼンテーション資料の作成の技術を身につける。	視覚対象 保健3H531(理学)と合同

教養教育系科目

(4) データサイエンス科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報リテラシー科目 (聴覚障害系)	HFO11	情報リテラシー	2	1	必修	1	木1 (天)117	河野純大 井上征矢 鈴木拓弥 田嶋美雪	本授業では、基本的な情報処理技術として、Eメール、teams、履修登録システムの使用法やレポートの書き方の技術、表計算ソフトの使用法、プレゼンテーションソフトの使用法やプレゼンテーションやディスカッションの技術について学ぶ。加えて、ネットワーク利用上のマナーや昨今利用が増加しているSNS 利用上の注意、ネットワーク上のトラブル、セキュリティの重要性について学ぶ。	聴覚対象 産業SH092と 合同
	HFO22	情報基礎論A	2	2	必修	1	月3 (天)201 (天)202	皆川洋喜 河野純大 非)内藤一郎	データサイエンスの基本として、データに基づいた論理的思考による情報デザインの基礎について学ぶ。情報デザインとは何か、どのような歴史を経たものかの基本や、データ分析からのアイデアの発想法について学び、具体的な情報デザインの例について学習する。この授業では、履修生の日常生活において見出される身近なテーマを題材にし、その問題に関する情報やデータを収集・分析して、解決案を発想・提案する練習を行う。	聴覚対象 産業SI033、 SJ213「情報デ ザイン論」と合 同
	HFO32	情報基礎論・演習 B	3	2	必修	2	水1,2 (天)202	皆川洋喜 河野純大 非)内藤一郎	データサイエンスの基礎としてデータに基づいた論理的思考による情報デザインの基礎を演習を通して学ぶ。身近な題材をテーマにし、その問題に関する情報やデータを収集・分析して、解決案を発想・提案する。各自から出された解決案について、ディスカッションを通して、より完成度の高い案に昇華させ、結果をわかりやすく伝えることができるプレゼンテーションにする。	聴覚対象 産業SI153、 SJ313「情報デ ザイン基礎論・ 演習」と合同
	HFO42	情報数理	2	2	選択	1	木5 (天)214	西岡知之 大川 学	情報科学の学習に必要な情報とコンピュータ、集合の概念、命題と真偽を学習し、専門教育に備える。 プログラミングの基礎となる論理的思考力を身に付ける。	聴覚対象 産業SA092 「情報数理A」 と合同

教養教育系科目
 (4) データサイエンス科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
基礎科目	VG011	数学基礎	2	1	必修	1	月1 (春)316	田中 仁 垣野内将貴	数学を使う学修の基礎となる知識の習得とその取り扱いのスキルに習熟する。学修する内容の前半は、基本的な数と式の計算、簡単な方程式と不等式、図形に関すること、また簡単な関数とそのグラフなどを学修する。後半はより進んだ内容を理解するために、数列と級数（数列の和）、極限、ベクトルなどの概念と取り扱いを含む内容を学修する。	視覚対象 保健1H440と 合同
	HG021	数学基礎	2	1	必修	1	金2 (天)R201	新井達也	専門科目の学修に必要な数学の基礎的内容について学ぶ。直線、放物線、円、分数関数、無理関数、指数関数、対数関数、三角関数などの基本的な知識の修得を通して応用力を身につける。	聴覚対象
	VG031	社会統計学A	2	1	必修	1	月3 (春)231	田中 仁	講義は確率の復習に始まり、推定・検定まで一通りの統計的手法の修得を目的とする。理解を深めるため、本科目は講義科目ではあるが、表計算ソフトを使った実習を行いながら講義内容の理解を深める。	視覚対象
	HG041	社会統計学A	2	1	必修	1	金4 (天)214	河野純大	データサイエンスの学びの基礎として基本統計量について学び、データに基づいた論理的思考や、プレゼンテーションのフレームについて学ぶ。前半の講義では、棒グラフ、散布図や複合グラフなどのグラフ特性を知り、データを可視化するためのグラフ化手法を学ぶ。次に、ヒストグラムや基本統計量、データの代表値について学んだ上で、ルーレットなどの具体的な例を題材に順列・組合せの区別の復習や確率データの計算やデータの特徴を学ぶ。後半の講義では、データを分析し可視化するための複数のフレームワークについて学ぶ。ここでは、具体的なビジネスデータ、マーケティングデータ、学生自身が興味を持ったデータを用いて、推論・可視化する練習を行い、最終的には分析に基づくプレゼンテーションを作成する。これらを通して、社会的な統計データに対する確かな根拠に基づく議論の基礎を学ぶ。	聴覚対象 産業SH102 「統計基礎」と 合同

教養教育系科目

(4) データサイエンス科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
基礎科目	VG051	社会統計学B	2	1	選択	2	火1 (春)231	田中 仁	統計学は、社会科学において「正しさ」を補償するために用いられる強力な道具である。本講義は、この道具を理解して使いこなせることを目標とする。豊富な実践例を通じて、研究課題を解決するための道具としての統計学を身に着けることを目標とする。現代推計統計学の確率者の一人であるロナルド・フィッシャーは弱視者であり、数式を音声により学んだといわれている。そんなことにも思いを馳せながら共に学んで行きたい。	視覚対象 保健6H120 「確率・統計」 (鍼灸・理学)と 合同
	HG061	社会統計学B	2	1	選択	2	木5 (天)214	菊地浩平	専門分野での研究を行う上で必要となる統計の基礎を身につけ、基本的な仮説検定による論証を行うことができるようになることを目指す。講義では、数学的な原理の解説にとどまらず、具体的な練習問題を用いて手を動かしながら学習を進める。	聴覚対象 産業SA082 「統計確率B」 と合同
	VG072	社会調査論	2	2	必修	1	火4 (春)316	鈴木拓人	この授業は、社会調査の意義、目的、歴史、方法論など、基本的事項について理解し、知識を身に付けることが目的である。これらの基本的事項に加えて、自らの問題関心にに基づき、社会調査に必要なデータの収集から分析までの各プロセスについても学修する。	視覚対象
	HG082	社会調査論	2	2	必修	1	火1 (天)R201	鈴木拓人	この授業は、社会調査の意義、目的、歴史、方法論など、基本的事項について理解し、知識を身に付けることが目的である。これらの基本的事項に加えて、自らの問題関心にに基づき、社会調査に必要なデータの収集から分析までの各プロセスについても学修する。	聴覚対象

教養教育系科目
 (4) データサイエンス科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
基礎科目	VG092	質的調査法	2	2	必修	2	木4 (春)231	鈴木拓人 青木千帆子	この授業では、社会調査のうち、特に質的調査と呼ばれるものに焦点を当てる。質的調査とは、数量のみでは捉えきれないさまざまな質的データを収集し分析するものである。とりわけ障害者を「問題」として浮かび上がらせる社会の秩序や規範を浮かび上がらせようとする時に、非常に有効なツールとなる。この授業ではインタビュー調査、参与観察、文献調査を取り上げ、それらの収集技法および分析手法について学習し、質的調査についての理解を深めることを目的とする。具体的には、社会学の諸領域における研究事例を広くとりあげ、それら研究の特徴や、利用されている方法論を分析的に検討していく。こうした作業を通じて、質的調査法の多種多様な調査法を学ぶだけでなく、質的研究それ自体について分析的に考えたり、質的研究という営みを量的研究との関係において理解したりするための視点を得ることを目指す。	視覚対象
	HG102	質的調査法	2	2	必修	2	木2 (天D101)	鈴木拓人 青木千帆子	この授業では、社会調査のうち、特に質的調査と呼ばれるものに焦点を当てる。質的調査とは、数量のみでは捉えきれないさまざまな質的データを収集し分析するものである。とりわけ障害者を「問題」として浮かび上がらせる社会の秩序や規範を浮かび上がらせようとする時に、非常に有効なツールとなる。この授業ではインタビュー調査、参与観察、文献調査を取り上げ、それらの収集技法および分析手法について学習し、質的調査についての理解を深めることを目的とする。具体的には、社会学の諸領域における研究事例を広くとりあげ、それら研究の特徴や、利用されている方法論を分析的に検討していく。こうした作業を通じて、質的調査法の多種多様な調査法を学ぶだけでなく、質的研究それ自体について分析的に考えたり、質的研究という営みを量的研究との関係において理解したりするための視点を得ることを目指す。	聴覚対象

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
障害社会学系科目	VH012	情報社会と情報倫理	2	2	選択	2	金1	河原正治 木村知史	本講義は、現在の社会と情報処理技術者との関わりについて、主に知的財産権の側面から学修する。特に、プログラムやコンテンツ開発における特許、著作権、商標等についての基礎的事項について、具体的な事例を取り上げて解説する。この授業により、プログラムやコンテンツ開発に関係した権利関係を理解し、プログラムやコンテンツの作成・利用に際してのトラブルを回避することができる知識と共に、コンテンツを取り扱う場合のモラルについても習得することを目的としている。	視覚対象
	HH022	情報社会と情報倫理	2	2	選択	2	月4 (天)520	西岡知之	コンピュータネットワークの仕組みについて理解したうえで、著作権や個人情報・プライバシーの概念を学び、情報社会で実際に発生している問題の社会的な影響や技術的な対策について理解する。	聴覚対象 産業SB623、 SE743と合同
	VH032	障害者の就労と社会	2	2	必修	1	水2	伊藤和之	障害者の就労に関する法制度は、障害者総合支援法、障害者雇用促進法をはじめ、少しずつ整備が続いている。しかし、障害を有する個人の実態を見た場合、解決すべき課題は今なお存在し続けている。「働きたい」「なりたい私になりたい」「自己実現したい」という個人の希望と社会との間に存在する見えない壁や溝には、どの程度の高さや深さがあるのだろうか。一人一人の障害者は、どのように乗り越え、埋めているのだろうか。本授業では、視覚障害をはじめ、広く、障害を持つ人々の就労の実態と社会との関わりについて理解を深める。考える基盤となる共通の法制度、各障害の概要と歴史を踏まえた上で、就労移行、就労時、就労継続における各種のバリアと対応の現状を紹介し、ディスカッションやゲストスピーチなどを通して更なる解決方法を考える。視覚障害を軸に、多様な背景を持つ他者と、就労を通じた社会参加及び社会づくりを実践する態度を身に付ける。	視覚対象
	HH042	障害者の就労と社会	2	2	必修	1	水2 (天)R201 他	鈴木拓人 非) 岩山誠	受講者が、自身の進路選択や就職活動、「共生社会の実現」に向けて自らが担う役割について考えるきっかけを得て、具体的なアクションに繋げていくための授業です。授業は対話方式で学生の疑問や質問に答えながら進めるほか、受講者間のグループディスカッションの機会を設けます。また、企業経営・雇用管理、障害者の就労支援等に関するゲスト講師を招へいし様々な立場・視点から話題を提供する中で、受講者には主体的に考え、発言し、記述することを求めます。	聴覚対象

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
障害社会学系科目	VH052	異文化コミュニケーション	1	2・3・4	選択	通年	集中	小林 真	<p>さまざまな人々が協調しあいながら生活する共生社会を作り上げていくためには、言語や文化・国籍の異なる人々と接し、互いにコミュニケーションをとることで、相互の理解を深めていくことが重要である。本授業では、こうした多様性の理解の一つの側面として、欧州15ヶ国以上から約60名の視覚障害学生と50名以上のスタッフが参加するサマーキャンプを利用して、海外の視覚障害学生やスタッフとの交流を通して、英語のコミュニケーション能力を磨き国際感覚を身に付ける。</p> <p>サマーキャンプは、大学間交流協定校であるリンツ大学IISが主催するもので、共通言語は英語である。キャンプは約10日間で、期間中学生は他の国の参加者らと寝食を共にして過ごし、半日単位のワークショップに連日参加する。ワークショップは5～10名程度の参加者に対してプレゼンテーションやコンピュータスキル、英語での履歴書の書き方といった技術を習得するものであり、スキルのみならず国際感覚を身に付ける。また、中日にあるエクスカーションでは、海外の参加者と協力してアウトドア活動に参加し、英語でのコミュニケーション能力と協調性を身に付ける。</p>	視覚対象 詳細は後日掲示
	HH062	異文化コミュニケーション	1	2・3・4	選択	通年	集中	白澤麻弓 小林洋子 田中豊大	<p>さまざまな人々が協調しあいながら生活する共生社会を作り上げていくためには、言語や文化・国籍の異なる人々と接し、互いにコミュニケーションを行うことで、相互の理解を深めていくための方策について学ぶことが重要である。本授業では、こうした多様性の理解の一側面として、諸外国のろう・難聴者が多数学ぶ大学等を訪問し、現地のろう・難聴学生の大学生活や教育・文化に触れるとともに、授業への参加、学生との交流を通して、言語や文化・歴史の違いを学ぶとともに、異文化間コミュニケーションの技術と理解を育てる。</p> <p>また、訪問準備の過程では、受講生自身が相互に協力し、訪問先に関する情報を収集したり、訪問先で実施する日本文化や日本手話に関するプレゼンテーションの準備を行う（担当：白澤）。加えて、訪問先での共同生活や帰国後の報告会の準備・実施を通して、ろう者や難聴者としての自己認識を高めるとともに、社会認識と実践的スキルを身につけることを目標としている（担当：小林）。</p>	聴覚対象

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
障害社会学系科目	VH073	専門英語 1	1	3	選択	1		小林ゆきの	本授業では、言語と教科内容を同時に教える内容言語統合型学習 (CLIL) の方法により、障害のある人の文化や情報保障、教育などについて学びながら、その学習の過程で受講生が英語の実用的な力を付けていけるよう授業を展開する。なお、この授業で考える実用的な力とはTOEIC で測定する英語力を想定している。TOEIC のスコアは日本の企業で求められることが多いが、障害者対応についてはまだ十分とは言い難く、現在対応を進めているところである。参考書についても障害者が利活用可能なものは少ないのが現状である。この授業ではこの点を補いつつ、情報アクセシビリティに関する議論を交わし内容言語統合型学習を進める。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HH083	専門英語 1	1	3	選択	1		神村幸蔵 田中豊大	本授業では、言語と教科内容を同時に教える内容言語統合型学習 (CLIL) の方法により、障害のある人の文化や情報保障、教育などについて学びながら、その学習の過程で受講生が英語の実用的な力を付けていけるよう授業を展開する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VH093	専門英語 2	1	3	選択	2		小林ゆきの	専門英語2 では、専門英語 1 に続き、言語と教科内容を同時に教える内容言語統合型学習 (CLIL) の方法により、障害のある人の文化や情報保障、教育などについて学びながら、その学習の過程で受講生が英語の実用的な力を付けていけるよう授業を展開する。なお、この授業で考える実用的な力とはTOEIC で測定する英語力を想定している。TOEIC のスコアは日本の企業で求められることが多いが、障害者対応についてはまだ十分とは言い難く、現在対応を進めているところである。参考書についても障害者が利活用可能なものは少ないのが現状である。この授業ではこの点を補いつつ、情報アクセシビリティに関する議論を交わし内容言語統合型学習を進める。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HH103	専門英語 2	1	3	選択	2		神村幸蔵 田中豊大	本授業では、言語と教科内容を同時に教える内容言語統合型学習 (CLIL) の方法により、障害のある人の文化や情報保障、教育などについて学びながら、その学習の過程で受講生が英語の実用的な力を付けていけるよう授業を展開する。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
障害社会学系科目	VH113	障害者生活環境論	2	3	選択	2		三浦美佐 山脇博紀 梅本舞子	物的環境と生活動作との関係、リハビリ機器の役割を人間工学的見地から履修する。自立に必要な空間の設備や建築的配慮の必要性について考察し、地域環境・まちづくりを実地検査し、問題点を考える。関連用品などの福祉機器について、その種類、目的、適応、操作法および社会保障制度など、また公共施設の地域環境などの基礎知識を修得する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HH123	障害者生活環境論	2	3	選択	2		三浦美佐 山脇博紀 梅本舞子	物的環境と生活動作との関係、リハビリ機器の役割を人間工学的見地から履修する。自立に必要な空間の設備や建築的配慮の必要性について考察し、地域環境・まちづくりを実地検査し、問題点を考える。関連用品などの福祉機器について、その種類、目的、適応、操作法および社会保障制度など、また公共施設の地域環境などの基礎知識を修得する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VH133	インターンシップ	2	3	選択 必修	1		武田直樹	担当教員の指導の下、企業や国立研究機関等での実習を行う。事前準備・実習・報告レポート作成などの実務経験を通じて、職場で必要となる各仕事における基本知識の獲得と実務経験の習得を目指す。あわせて自らの障害に対する補償技術の実社会における有効性や可能性を評価し、確認する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HH143	インターンシップ	2	3	選択 必修	1		武田直樹	担当教員の指導の下、企業や国立研究機関等での実習を行う。事前準備・実習・報告レポート作成などの実務経験を通じて、職場で必要となる各仕事における基本知識の獲得と実務経験の習得を目指す。あわせて自らの障害に対する補償技術の実社会における有効性や可能性を評価し、確認する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VH153	社会保障論	2	4	選択	1		青木千帆子	共生社会を形成するためには、基盤となる法制度の整備が必要となる。本授業では、社会保障制度の基本的な概念や、障害者の生活に深く関わる法制度について取り上げ、理解を深める。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HH163	社会保障論	2	4	選択	1		青木千帆子	共生社会を形成するためには、基盤となる法制度の整備が必要となる。本授業では、社会保障制度の基本的な概念や、障害者の生活に深く関わる法制度について取り上げ、理解を深める。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VIO11	障害の特性と理解	2	1	必修	2	金3 (春)316	白澤麻弓 青木千帆子 非) 山森一希 非) 吉川かおり 非) 末吉彩香 非) 上岡陽江	多様な人々の社会的活躍を支えていくためには、そうした人々の持つ障害について、正しい理解を持つことが重要である。この授業では、自身の持つ障害以外のさまざまな障害（聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、発達障害、精神障害など）について、病理学、生理学、教育学、心理学、リハビリテーション学の観点から学ぶことで、障害の特性についての基礎的な知識を獲得するとともに、多様な障害がある人の「活動」や「参加」の状態を向上させるための指導や援助の内容について学習する。これらを通じて、さまざまな障害を持つ人々の社会参加を支え、彼/彼女らの活躍を支援するための基礎的な技術と知識の習得を目指す。	視覚対象 HIO21、産業SE633、SF523、SG513、SJ693と合同
	HIO21	障害の特性と理解	2	1	必修	2	金3 (春)316	白澤麻弓 青木千帆子 非) 山森一希 非) 吉川かおり 非) 末吉彩香 非) 上岡陽江	多様な人々の社会的活躍を支えていくためには、そうした人々の持つ障害について、正しい理解を持つことが重要である。この授業では、自身の持つ障害以外のさまざまな障害（聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、発達障害、精神障害など）について、病理学、生理学、教育学、心理学、リハビリテーション学の観点から学ぶことで、障害の特性についての基礎的な知識を獲得するとともに、多様な障害がある人の「活動」や「参加」の状態を向上させるための指導や援助の内容について学習する。これらを通じて、さまざまな障害を持つ人々の社会参加を支え、彼/彼女らの活躍を支援するための基礎的な技術と知識の習得を目指す。	聴覚対象 VIO11、産業SE633、SF523、SG513、SJ693と合同
	VIO31	障害社会学	2	1	必修	2	金2 (春)316	青木千帆子	国連「障害者の権利に関する条約」において示されている「社会モデル」を軸に、「障害」や「社会的障壁」に対する幅広い見方・捉え方について学習する。同時に、より幅広い対象を包含する「ダイバーシティ」の概念について理解し、ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンを基盤とした社会のあり方について議論を深める。	視覚対象 HIO41、産業SE643、SF533、SG523、SJ703と合同
	HIO41	障害社会学	2	1	必修	2	金2 (春)316	青木千帆子	国連「障害者の権利に関する条約」において示されている「社会モデル」を軸に、「障害」や「社会的障壁」に対する幅広い見方・捉え方について学習する。同時に、より幅広い対象を包含する「ダイバーシティ」の概念について理解し、ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンを基盤とした社会のあり方について議論を深める。	聴覚対象 VIO31、産業SE643、SF533、SG523、SJ703と合同

専門教育系科目
(5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VI052	ダイバーシティの理解	2	2	必修	1	金4 (春)131	小林洋子 青木千帆子	近年、新しい社会理念として「ダイバーシティ」が重視されるようになってきている。ダイバーシティは、アメリカ公民権運動にルーツを持ち、1980年以降に多様な人材活用による企業の競争力強化策として実施されるようになってきており、近年日本でも、ダイバーシティを理念として掲げる企業や組織が増えてきている。本講義ではダイバーシティの可能性と課題について、ジェンダーやセクシュアリティ、障がいをはじめ、大学や企業、メディアなど幅広い視点から検討し、基礎的、具体的理解を深める。	視覚対象 HI062と合同
	HI062	ダイバーシティの理解	2	2	必修	1	金4 (春)131	小林洋子 青木千帆子	近年、新しい社会理念として「ダイバーシティ」が重視されるようになってきている。ダイバーシティは、アメリカ公民権運動にルーツを持ち、1980年以降に多様な人材活用による企業の競争力強化策として実施されるようになってきており、近年日本でも、ダイバーシティを理念として掲げる企業や組織が増えてきている。本講義ではダイバーシティの可能性と課題について、ジェンダーやセクシュアリティ、障がいをはじめ、大学や企業、メディアなど幅広い視点から検討し、基礎的、具体的理解を深める。	聴覚対象 VI052と合同
	VI072	教育とダイバーシティ	2	2	必修	2	金5 (春)316	青木千帆子 嶋 俊樹 田中豊大	ジェンダーや国籍、出身、障害など、さまざまな背景を持つ児童・生徒の教育的ニーズを理解し、これらの児童・生徒の可能性を引き出すための指導や支援の方法について学習するとともに、こうした児童・生徒が生き生きと学ぶことのできる学校運営や教育のあり方について議論を深める。	視覚対象 HI082と合同
	HI082	教育とダイバーシティ	2	2	必修	2	金5 (春)316	青木千帆子 嶋 俊樹 田中豊大	ジェンダーや国籍、出身、障害など、さまざまな背景を持つ児童・生徒の教育的ニーズを理解し、これらの児童・生徒の可能性を引き出すための指導や支援の方法について学習するとともに、こうした児童・生徒が生き生きと学ぶことのできる学校運営や教育のあり方について議論を深める。	聴覚対象 VI072と合同

専門教育系科目
(5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VI093	社会福祉学	2	3	必修	1		非) 大村美保 青木千帆子	共生社会を形成するためには、社会福祉の果たす役割に関する理解が重要になる。本授業では、障害者の社会参加を支援する人材に必要な社会福祉に関する知識と技術に焦点を絞って取り上げ、理解を深める。全ての回の授業を大村・青木の2名が共同して開講する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI103	社会福祉学	2	3	必修	1		非) 大村美保 青木千帆子	共生社会を形成するためには、社会福祉の果たす役割に関する理解が重要になる。本授業では、障害者の社会参加を支援する人材に必要な社会福祉に関する知識と技術に焦点を絞って取り上げ、理解を深める。全ての回の授業を大村・青木の2名が共同して開講する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VI113	共生社会と支援	2	3	必修	1		河野純大 非) 竹内義剛 非) 絹川麻里 非) 伊藤精英 非) 森 敦史 非) 志磨村早紀 非) 桑原教彰 非) 渡辺哲也 非) 布川清彦 非) 田中久弥 非) 南部充央 非) 舩越高樹	この授業では、障害者や高齢者等の生活における支援や支援技術の最先端の実際について知り、幅広い支援や支援技術の実際・実践を知ることを通し、基本的かつ実践的な知識を習得する。また、支援や支援技術を活用するだけでなく、改善提案を考案することができるなど理解を深化させる。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI123	共生社会と支援	2	3	必修	1		河野純大 非) 竹内義剛 非) 絹川麻里 非) 伊藤精英 非) 森 敦史 非) 志磨村早紀 非) 桑原教彰 非) 渡辺哲也 非) 布川清彦 非) 田中久弥 非) 南部充央 非) 舩越高樹	この授業では、障害者や高齢者等の生活における支援や支援技術の最先端の実際について知り、幅広い支援や支援技術の実際・実践を知ることを通し、基本的かつ実践的な知識を習得する。また、支援や支援技術を活用するだけでなく、改善提案を考案することができるなど理解を深化させる。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VI133	手話・点字と障害支援技術	1	3	必修	1		嶋 俊樹 白澤麻弓 田中 仁	聴覚障害者・視覚障害者が相互にコミュニケーションしたり、やりとりを行う際に必要な技術と態度を習得するとともに、コミュニケーション上、重要な役割を持つ日本手話や点字等の技術に焦点をあて、基本的な書記ルール・語彙・文法等について学習する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI143	手話・点字と障害支援技術	1	3	必修	1		嶋 俊樹 白澤麻弓 田中 仁	聴覚障害者・視覚障害者が相互にコミュニケーションしたり、やりとりを行う際に必要な技術と態度を習得するとともに、コミュニケーション上、重要な役割を持つ日本手話や点字等の技術に焦点をあて、基本的な書記ルール・語彙・文法等について学習する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VI153	障害者スポーツ	1	3	選択必修	2		向後佑香 中島幸則 澁上真帆	障がいのある人が取り組むスポーツについて理解を深めるために、各種障がいの特性について学ぶとともに、スポーツ指導者に必要な知識や技能を、体験を通して身に付けることを目標とする。また、本学で開催される「障がい者スポーツイベント」において、企画、運営に関わるなど、実践力を養い、最終的にパラスポーツ指導員の資格取得を目指す。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI163	障害者スポーツ	1	3	選択必修	2		向後佑香 中島幸則 澁上真帆	障がいのある人が取り組むスポーツについて理解を深めるために、各種障がいの特性について学ぶとともに、スポーツ指導者に必要な知識や技能を、体験を通して身に付けることを目標とする。また、本学で開催される「障がい者スポーツイベント」において、企画、運営に関わるなど、実践力を養い、最終的にパラスポーツ指導員の資格取得を目指す。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VI173	盲ろう者の理解と支援	1	3	選択必修	2		白澤麻弓 磯田恭子 宮城愛美 青木千帆子 非) 別府あかね	視覚障害と聴覚障害の両方を合わせ有する状態を「盲ろう」という。こうした障害のある盲ろう者には、失明・失聴の時期や見え方・聞こえ方の状態、教育背景等により、さまざまな状態があり、視覚障害者とも聴覚障害者とも異なる特性があると言われている。本授業では、こうした盲ろう者の障害特性とコミュニケーション方法、支援方法に焦点を当て、その理解と支援技術の習得を目指す。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI183	盲ろう者の理解と支援	1	3	選択必修	2		白澤麻弓 磯田恭子 宮城愛美 青木千帆子 非) 別府あかね	視覚障害と聴覚障害の両方を合わせ有する状態を「盲ろう」という。こうした障害のある盲ろう者には、失明・失聴の時期や見え方・聞こえ方の状態、教育背景等により、さまざまな状態があり、視覚障害者とも聴覚障害者とも異なる特性があると言われている。本授業では、こうした盲ろう者の障害特性とコミュニケーション方法、支援方法に焦点を当て、その理解と支援技術の習得を目指す。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VI193	諸外国の障害者と文化・社会・生活	2	3	選択必修	2		萩原彩子 小林ゆきの 白澤麻弓 小林洋子 小林 真 井口正樹	世界の障害者に目を向け、それぞれの国における障害者の教育や福祉、文化、芸術、就労等の状況について学ぶとともに、国際的にさまざまな分野で活躍している障害者の姿について知る。諸外国の制度的な側面に加え、諸外国の障害者の実際を知ること、障害者を含めた様々な人々が活躍し社会貢献できる共創社会のあり方を検討していく。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HI203	諸外国の障害者と文化・社会・生活	2	3	選択必修	2		萩原彩子 小林ゆきの 白澤麻弓 小林洋子 小林 真 井口正樹	世界の障害者に目を向け、それぞれの国における障害者の教育や福祉、文化、芸術、就労等の状況について学ぶとともに、国際的にさまざまな分野で活躍している障害者の姿について知る。諸外国の制度的な側面に加え、諸外国の障害者の実際を知ること、障害者を含めた様々な人々が活躍し社会貢献できる共創社会のあり方を検討していく。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
(5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目（視覚障害系）	VJ011	視覚障害学概論	2	1	必修	1	木2 (春)316	伊藤和之 宮城愛美	視覚障害にはグラデーションがある。障害原因、視力、視野をはじめとして、視覚障害児・者個々人の見え方は千差万別である。日常生活に支障を来しているケースもあれば、社会生活上のある部分における不自由に悩むケースもあり得る。そのため、相互理解のためには、たとえ視覚障害者同士であっても、一定の知識、時間、コミュニケーションの場、そして必要な場面が存在する。晴眼者であれば、尚のことである。 本授業では、キャリア形成の基礎を整える視点から、自己の障害の特性を理解し適切に対処するための知識や技術を身につけると共に、自己の障害や視覚障害全般についての見識を深め、社会的なリーダーとしても通用する障害者となるべく、障害者に対する社会の認識、障害者の自立などを学修する。授業は、講義、ディスカッション、ゲストスピーチなどで構成する。	視覚対象 保健4H100と 合同
	VJ022	視覚障害者社会参加論	2	2	必修	2	月1 (春)316	竹下 浩	殆どの人にとって「社会に参加する」ということは、「働く」ことへの対価として生活に必要な「収入を得る」ことである。その営みを通じて「自己実現」や「他者貢献」の実感も得られる。一方、視覚障害者の雇用と就労の難しさは、長期にわたる社会的な課題である。 前半は、障害者の雇用と就労を支援する団体の具体例やノウハウを学ぶことで、各種雇用促進制度や障害別の困難さについて理解する。これにより他者が直面している多様な困難が理解でき、支援者としての視点が持てるようになる。 後半は、学術論文を平易に解説することで、視覚障害者のキャリア発達・就労の現状と課題・スキル発達と支援プロセスについて学ぶ。これにより、自分の不足しているスキルを自己診断できる。 ゼミ形式で、思考の整理と積極性発揮の訓練を反復することで、対人的・概念的スキルが向上する。	視覚対象 保健4H110と 合同
	VJ031	点字の理論と実際	2	1	必修	1	木5 (春)316	田中 仁	点字についての講義を中心に、美の3要素とされる「単純」「対称」「意外性」の視点から、最も単純な文字である点字に潜む構造の理解を進める。さらに、分かち書きについては、時間を割いて詳細に行い、その能力を向上させる。	視覚対象 保健4H200と 合同

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目 (視覚障害系)	VJ041	障害補償演習1	1	1	選択	1	木4 (春)316	伊藤和之 宮城愛美 田中 仁 嶋 俊樹	視覚障害者用の支援機器やアプリケーションは、ローテク（点字盤や拡大読書器など）から、ハイテク（PCや点字電子メモ帳など）まで、様々なものが製品化されている。高等教育の学修に際しては、科目の特性や自らの障害特性を踏まえた上で、紙媒体だけでなく、各種の支援機器やソフトウェアを学習手段として組み合わせながら使用することによって、障害を補い、学習効率を上げ、心身の負担を軽減する効果が得られる。この考え方は、就労、加齢、障害程度の変化などの場面や状況においても、一定の役割を果たす基盤の知識と操作技術と言える。 本授業では、各学生の学修上のニーズと能力に応じ、視覚障害補償の理論と具体的方策を学習する。具体的には、学修および各種試験等において点字（担当：嶋）、点字機器（担当：田中）、デイジー（担当：伊藤）、タブレット（担当：宮城）、その他の機器・技術（担当：伊藤、宮城）の使用を希望する学生が、その効率的な利用法を学習する。	視覚対象 保健4H300と 合同
	VJ051	障害補償演習2	1	1	選択	2	木4 (春)316	伊藤和之 宮城愛美 田中 仁 嶋 俊樹	視覚障害者用の支援機器やアプリケーションは、ローテク（点字盤や拡大読書器など）から、ハイテク（PCや点字電子メモ帳など）まで、様々なものが製品化されている。高等教育の学修に際しては、科目の特性や自らの障害特性を踏まえた上で、紙媒体だけでなく、各種の支援機器やソフトウェアを学習手段として組み合わせながら使用することによって、障害を補い、学習効率を上げ、心身の負担を軽減する効果が得られる。この考え方は、就労、加齢、障害程度の変化などの場面や状況においても、一定の役割を果たす基盤の知識と操作技術と言える。 本授業では、障害補償演習1に引き続き、各自が必要な障害補償技術のスキルアップを行う。必要に応じて、専門性の高いデイジー図書の作成ができ、また、それらを用いた学習が行える（担当：伊藤、田中）。また、パソコン（担当：宮城）やタブレット（担当：嶋）を利用した高度な視覚障害補償方法を学ぶ。	視覚対象 保健4H310と 合同

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目（視覚障害系）	VJ062	コミュニケーション演習	1	2	必修	1	水3	伊藤和之	他者を通して、若しくは他者と協同で物事を進める際、私たちは、コミュニケーションをはかる。コミュニケーションの構造に含まれるメッセージの伝達と理解には、プレゼンテーションが関与する。ここでは、人と人で行われる知覚・感情・思考の伝達をコミュニケーション、聞き手に対して能動的に情報を提示して、理解・納得を得るため行為をプレゼンテーションと称している。プレゼンテーションはコミュニケーションの構成要素である。 本授業は、二部構成で実施する。前半は、対人間コミュニケーションの知識、技法及び態度の習得を目指す。コミュニケーションの意味、目的、構造、種類、技法、態度を紹介する。後半は、コミュニケーションの構成要素であるプレゼンテーションに関する知識、技法及び態度の習得を目指す。プレゼンテーションの意味、目的、方法、技法、態度を紹介する。授業は、講義、ロールプレイ、ゲストスピーチなどで構成する。本授業は、文学、日本語表現法をはじめ、視覚障害学概論、障害者の就労と社会など、障害社会学系科目の科目との関連を密にしている。	視覚対象
	VJ073	環境マネジメント	2	3	選択	1		嶋村幸仁 堀江則之	企業における環境配慮を学修するとともに、ISO14001 を理解し、環境経営を学修する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	VJ082	視覚障害当事者研究1	2	2	必修	1	火2 (春)131	田中 仁 松尾政輝 青木千帆子	「当事者研究」とは、障害に関する個人的な経験を自ら分析することを通じて、社会を問い直す営みのことを言う。どんな人も、それぞれに課題や困難さを持っていて、それらと折り合いをつけて生きている。本科目では、「視覚障害当事者研究」として、その障害ゆえに現れる個々の課題や困難さに、「科学的な考え方」で向き合う力を養成する。「チャレンジを科学すること」これが本科目の目的である。2年次1 学期に開催する「視覚障害者当事者研究1」、2年次2 学期に開催する「視覚障害者当事者研究2」、3年次2 学期に開催する「視覚障害者当事者研究3」と連続して受講することが期待される。	視覚対象

専門教育系科目
 (5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目（視覚障害系）	VJ092	視覚障害当事者研究2	2	2	必修	2	月2 (春)131	田中 仁 松尾政輝 青木千帆子	「当事者研究」とは、障害に関する個人的な経験を自ら分析することを通じて、社会を問い直す営みのことを言う。どんな人も、それぞれに課題や困難さを持っていて、それらと折り合いをつけて生きている。本科目では、「視覚障害当事者研究」として、その障害ゆえに現れる個々の課題や困難さに、「科学的な考え方」で向き合う力を養成する。「チャレンジを科学すること」これが本科目の目的である。2年次1学期に開催する「視覚障害者当事者研究1」、2年次2学期に開催する「視覚障害者当事者研究2」、3年次2学期に開催する「視覚障害者当事者研究3」と連続して受講することが期待される。	視覚対象
	VJ103	視覚障害当事者研究3	2	3	選択必修	2		田中 仁 松尾政輝 青木千帆子	「当事者研究」とは、障害に関する個人的な経験を自ら分析することを通じて、社会を問い直す営みのことを言う。どんな人も、それぞれに課題や困難さを持っていて、それらと折り合いをつけて生きている。本科目では、「視覚障害当事者研究」として、その障害ゆえに現れる個々の課題や困難さに、「科学的な考え方」で向き合う力を養成する。「チャレンジを科学すること」これが本科目の目的である。2年次1学期に開催する「視覚障害者当事者研究1」、2年次2学期に開催する「視覚障害者当事者研究2」、3年次2学期に開催する「視覚障害者当事者研究3」と連続して受講することが期待される。	視覚対象 令和8年度開講せず
	VJ113	業務研究	2	3	選択	1		堀江則之	本授業は、企業等における一般的な業務（日常的に行われる仕事）について、事務・管理系などのスタッフ（支援）部門を中心に、どのような業務が行われているかについて理解を深める。そして、大学卒業後の就職を見据えて、「自分ができる仕事」や「挑戦してみたい仕事」などについて考えていく。さらに、企業等の採用担当者から「どのような仕事がしたいか」あるいは「どのような仕事ができるか」などの質問に対する自分の回答を明確化していくことによって、本番の就職活動に備える。	視覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
(5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目（聴覚障害系）	HK011	情報保障概論	2	1	必修	1	火2 (天)プレゼンテーションルーム	三好茂樹 白澤麻弓	聴覚障害者のための手話通訳や文字通訳等を中心とする各種情報保障の手段や技術について実習や演習を踏まえながら、理解を深めることを目的とする。	聴覚対象 産業SA551、SH511と合同
	HK022	聴覚科学	2	2	必修	2	月1 (天)213	笹目友香 安 啓一	本講義では、聴覚障害に関わる聴覚の科学全般について、聴覚障害の生理病理、音の特徴、聴覚系における情報処理、聴覚障害に関わる聴覚心理を解説する。また、講義のみではなく騒音計、聴覚検査機器等を用いた実際の検証も取り入れる。	聴覚対象 産業SA741、SH731と合同
	HK032	ろう・難聴者の社会参加	2	2	必修	1	水1 (天)214 (天)215	大杉 豊 小林洋子	ろう者・難聴者の個人生活及びコミュニティを権利擁護、情報・コミュニケーション保障、文化活動、スポーツ活動などの切り口で解説し、社会参加を実現していくために必要な知識の習得を図る。そして、就職活動の軸となる「自分史」を作る。自分の過去の経験を振り返ることで、自分の行動パターンや自分が大事にしている価値観を言語化する。	聴覚対象 産業SA731、SH721「ろう・難聴者の社会資源と自分史」と合同
	HK042	ろう・難聴者を取り巻く社会資源	3	2	必修	通年	1学期 集中 2学期 火4,5 (天)617 他	菊地浩平 大杉 豊 三好茂樹 白澤麻弓 非) 高山亨太	本授業では、ろう・難聴者を取り巻くさまざまな社会資源のうち、手話通訳や文字通訳といった情報保障制度や音声認識・手話認識といった工学的技術を用いた支援、さらには、社会福祉の理論と現場における実践等について、講義と演習の両面から学習を深めていくことで、ろう・難聴者支援における多面的なアプローチについて理解を深めることを目的とする。	聴覚対象 産業SE613、SF503、SG493、SJ673「支援技術学論・演習B」と合同
	HK052	日本語社会とコミュニケーション	2	2	選択	1	木3 (天)214	非) 脇中起余子	本講義では、「察する」ことが求められる聴者の日本語社会で生きる力の育成に重点を置く。社会で自立した人間として生きるためには、「社会常識」を知っているだけでなく、自分の意見をまとめ、他人の意見をつかみ、グループ作業を進める力が必要である。また、自分の障害を適切に説明できる力、周囲の状況に応じて適切な解決方法を考える力、相手の反応を予測し、相手も自分も納得できる方法を考える言動ができる力が求められる。そのため、場面設定やグループ協議を通して、聴者の世界と聴覚障害者の世界の両方をスムーズに行き来できるスキルを身につけることを、本講義の主要目的とする。また、手話表現などを考える中で、日本語の微妙なニュアンスのみならず、相手にどんな印象を与えるかまで考察する。	聴覚対象 産業SA591、SH551と合同

専門教育系科目
(5) 障害社会学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報アクセシビリティ科目（聴覚障害系）	HK062	セルフアドボカシー演習	1	2	必修	2	木3 (天)D101	中島亜紀子 萩原彩子 磯田恭子	自身の聞こえの特性やコミュニケーションについて整理を行った上で、社会的障壁を自ら解消していく手段や方略を実践的に学ぶ。支援手段を使いこなすことにとどまらず、自らのニーズを明確化し、相手や場に応じた配慮を立案する力や、適切に依頼するためのふるまいなど、さまざまな場面を想定した演習を通して、セルフアドボカシースキルを身につける。	聴覚対象
	HK073	聴覚障害と就労	2	3	選択必修	2	()	()	自分自身の生涯設計を「職業」の観点から構想し、就職活動という具体的な行為の中に具現化していく授業です。特に就職活動についてはきめ細かく解説し、また受講生自身に考えてもらいます。授業は対話方式で学生の疑問や質問に答えながら進めるほか、外部講師による模擬面接、グループディスカッションなどの機会を設け、受講者には主体的に考え、発言し、記述することを求めます。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	HK083	ライフキャリア	2	3	選択必修	1	()	小林洋子 ()	社会で活躍して報酬を得る仕事だけでなく、結婚、出産、育児、親の介護など、生涯のあらゆるステージを「キャリア」ととらえ、それを豊かにし、自ら切り拓く力を身につけていくことが「ライフキャリア」という考え方である。人生100年時代、個々人の生き方や働き方も多様になってきている社会において、生涯に渡るキャリアの発達・開発について、理論から実践について学び、生涯現役時代のライフキャリアの有り様を概観し、私たちが直面する課題や問題を検討する。そして、自分らしいキャリアをどのように歩むか、講義・ワーク・ディスカッションを通じて考える。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	HK093	視覚言語表現技法	2	3	選択	2	()	小林洋子 大杉 豊	手話言語を主とする視覚言語の概要（特性、種類）を理解し、手話言語を解しない人を相手にしても視覚言語で伝える方法と伝わるための工夫、表現技法を学ぶ。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報科学系科目	VLO11	情報科学概論	2	1	必修	2	月3 (春)共同	福永克己	講義主体で行う。毎回、復習で解いた過去問題の解説を行った後、教科書のポイントをまとめた資料を説明する。	視覚対象 保健9H120(情報)と合同
	HLO22	情報科学概論	2	2	必修	1	月1 (天)617	黒木速人 白石優旗 稲葉 基 菊地浩平 若月大輔 大塚和彦 西岡知之 加藤伸子 渡辺知恵美 安 啓一 鍾 穎 大川 学 田中陽土	情報科学・支援技術学(情報)における各専門分野の学習への導入として、各専門分野の概要、最新の話題、応用範囲、必要となる基礎力などについて幅広く学習する。これにより、将来の目標を設定し、今後の学習の履修モデル作成に役立てる。	聴覚対象 産業SB012、 SEO12と合同
	VLO32	プログラミング基礎	2	2	必修	1	木1 (春)131	小林 真 谷 貴幸	python を題材に、プログラミングの基本である配列やファイル操作、ループや分岐などの制御構文、ソートなどの簡単なアルゴリズムや機械学習の基礎を学修する。	視覚対象
	HLO42	プログラミング基礎	2	2	必修	1	月5 (天)316	谷 貴幸	コンピュータ言語のVisual BASIC を使用して、プログラミングの基礎を学修するとともに、簡単な数値解析アルゴリズムのプログラミング等を習得する。	聴覚対象

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報科学系科目	VL051	ウェブテクノロジーとセキュリティ	2	1	必修	2	木3 (春)231	河原正治 金堀利洋 木村知史	本講義は、インターネット上で動作するソフトウェアがどのように情報をやりとりしているかに関する仕組みについて講義する。特に、コンピュータ同士が通信するために必要となる規約（通信プロトコル）や通信経路の選択技術（ルーティング）などについて学修する。また、代表的なインターネットアプリケーションであるWorld Wide Webや電子メールがどのように実用化されているかについて講義するとともに、暗号・認証などの技術、ネットワークサービスにおけるセキュリティ、アクセス制御について学修する。理解をより深めるために、ネットワーク管理ツールの使用方法や簡単なプログラミングの実習を随時織り交ぜながら授業を進める。	視覚対象
	HL061	ウェブテクノロジーとセキュリティ	2	1	必修	2	金1 (天)520	西岡知之	2進数や論理、情報量の基礎など、コンピュータの数理的裏づけを概観するとともに、コンピュータのハードウェア構造、プログラムが実行される仕組みなどについて学ぶ。	聴覚対象 産業SH142と 合同
	VL072	データベース基礎と検索技術	2	2	選択	2	月5	福永克己	講義主体で行う。教科書のポイントをまとめた資料を説明する。	視覚対象
	HL082	データベース基礎と検索技術	2	2	選択	2	木4,5 (天)507	渡辺知恵美	リレーショナルデータモデルに基づいたデータ管理および検索手法を学修するとともに、近年の自然言語データ、半構造データに対する大規模検索手法を理解し、学修する。	聴覚対象 産業SB593、 SE723「データ ベース論・演 習」と合同 2学期の1週目 (10月上旬)か ら7週開講

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報科学系科目	VL092	アルゴリズムとデータ構造	2	2	選択	2	木1	松尾政輝	本講義ではプログラミングの基礎を学びながら、効率的なプログラミングの基礎となるアルゴリズムとデータ構造について学習する。アルゴリズムとは問題を解く典型的な手法であり、データ構造とはプログラムの中で問題を表現する技法であり、この二つがプログラミングの両輪をなす。本講義では、まずはPython言語を用いてプログラミングの基礎を学び、その後で探索、整列、文字列処理、再帰的手法などの各種アルゴリズムについて理解を深める。また、データ構造としてリスト構造と木構造を学習し、それらを用いてプログラミングする手法を学ぶ。最終的に、論理的な思考と問題解決能力を高めることを目標とする。	視覚対象
	HL103	アルゴリズムとデータ構造	2	3	選択	1		渡辺知恵美	アルゴリズムとデータ構造は、情報処理技術に必須な知識である。各種のアルゴリズムとそれに伴うデータ構造、計算量について学習する。	聴覚対象 令和8年度開講せず
	VL113	ヒューマンインタフェース	2	3	選択必修	1		宮城愛美	ヒューマンインタフェースとは人間と道具・機械の接点であり、道具・機械の使いやすさに大きく影響する。ヒューマンインタフェースの原則、理論、ガイドライン、評価方法、関連技術について、教科書を読み進めながら学修する。また、グループワークを通して教科書の内容を議論、試行して理解する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HL123	ヒューマンインタフェース	2	3	選択必修	1		西岡知之 加藤伸子 皆川洋喜 河野純大	人間の感覚器・運動器・認知機構と、これらを補償・拡大するシステムやデザイン設計について学習する。具体的には、情報メディア、人とコンピュータとのインタフェース、マルチメディア、バーチャルリアリティとコンピュータシミュレーション、感覚・肢体障害者のアクセシビリティ、画像・音声認識技術の感覚代行への応用などについて学ぶ。ケーススタディを通じて人間とモノ・コト・情報等の関係性について理解を深める。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VM012	プログラミング応用	2	2	選択必修	2	木5	三好茂樹	プログラミング基礎にて習得したプログラミング言語の基礎能力とシステム開発環境の操作能力に基づいて、通信技術を活用した情報保障システムやコミュニケーションシステムの開発を体験学習する。システムのインタフェース等に関する議論や体験を通して、聴覚・視覚障害それぞれのコミュニケーション方法の違いや工学的なシステムへアクセス方法の違いを理解する。また、聴覚・視覚障害それぞれの開発環境の差を理解する。	視覚対象 HMO22と合同 (合同実施でない回もあり)
	HMO22	プログラミング応用	2	2	選択必修	2	火3 (天)R201	三好茂樹	プログラミング基礎にて習得したプログラミング言語の基礎能力とシステム開発環境の操作能力に基づいて、通信技術を活用した情報保障システムやコミュニケーションシステムの開発を体験学習する。システムのインタフェース等に関する議論や体験を通して、聴覚・視覚障害それぞれのコミュニケーション方法の違いや工学的なシステムへアクセス方法の違いを理解する。また、聴覚・視覚障害それぞれの開発環境の差を理解する。	聴覚対象 VM012と合同 (合同実施でない回もあり) 合同実施回は木5
	VM033	データ解析法演習	1	4	選択	1		皆川洋喜	データ解析の基本的な手法を身に付けるために、表計算ソフト及びデータ解析ソフトを用いた演習を行う。視覚障害者と聴覚障害者の共同実施により、ソフトウェア使用及びデータ表現のインタフェースについて相互に情報共有しながら実践的に理解を深める。また、グループ作業により相互のコミュニケーション方法について実体験を通して理解を深める。さらに、自身を含む障害者のインタフェース及びコミュニケーションについて新たな提言を促す。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HMO43	データ解析法演習	1	4	選択	1		皆川洋喜	データ解析の基本的な手法を身に付けるために、表計算ソフト及びデータ解析ソフトを用いた演習を行う。視覚障害者と聴覚障害者の共同実施により、ソフトウェア使用及びデータ表現のインタフェースについて相互に情報共有しながら実践的に理解を深める。また、グループ作業により相互のコミュニケーション方法について実体験を通して理解を深める。さらに、自身を含む障害者のインタフェース及びコミュニケーションについて新たな提言を促す。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
(6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
視覚・聴覚障害系共同実施科目	VM053	社会システム評価 設計論	2	3	選択 必修	1		河原正治 鈴木拓人 木村知史	日常の些細なミスから、人命に関わるような事故、経済システムを混乱させるようなシステム障害などを引き起こす主要な原因は、人間が犯すヒューマンエラーである。本講義では、人間が犯す失敗、人間同士のコミュニケーションの失敗という観点を主軸とし、過去の様々な事例を分析・評価し、どのような対策が有効であるかについて学修する。各回の授業においては、過去の事例を紹介した後、分析・評価、対策等についてグループで討論し、失敗を起こさせない社会システムの設計方法を検討する。	視覚対象 令和8年度開講 せず
	HM063	社会システム評価 設計論	2	3	選択 必修	1		河原正治 鈴木拓人 木村知史	日常の些細なミスから、人命に関わるような事故、経済システムを混乱させるようなシステム障害などを引き起こす主要な原因は、人間が犯すヒューマンエラーである。本講義では、人間が犯す失敗、人間同士のコミュニケーションの失敗という観点を主軸とし、過去の様々な事例を分析・評価し、どのような対策が有効であるかについて学修する。各回の授業においては、過去の事例を紹介した後、分析・評価、対策等についてグループで討論し、失敗を起こさせない社会システムの設計方法を検討する。	聴覚対象 令和8年度開講 せず
	VM073	教育支援工学	2	4	選択 必修	1		河原正治 鈴木拓人 木村知史	ICT技術の発展に伴い、e-learningやCBT（Computer Based Testing）が広く利用されるようになった。本講義では、e-learningやCBTの歴史的変遷および現状について学修する。また、学習者の多様性への配慮という観点から、このような技術を考察するために、大学入試における受験上の配慮のあり方について学修し、そのような配慮がe-learningやCBT技術に反映されているかどうか、今後どうあるべきか等についてグループで討論を行い、成果を発表する。	視覚対象 令和8年度開講 せず
	HM083	教育支援工学	2	4	選択 必修	1		河原正治 鈴木拓人 木村知史	ICT技術の発展に伴い、e-learningやCBT（Computer Based Testing）が広く利用されるようになった。本講義では、e-learningやCBTの歴史的変遷および現状について学修する。また、学習者の多様性への配慮という観点から、このような技術を考察するために、大学入試における受験上の配慮のあり方について学修し、そのような配慮がe-learningやCBT技術に反映されているかどうか、今後どうあるべきか等についてグループで討論を行い、成果を発表する。	聴覚対象 令和8年度開講 せず

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報保障工学科目 (視覚障害系)	VNO11	移動支援工学演習	1	1	選択	1	水1 (春)316 (春)411	非) 石川充英	各自が今までで移動時に感じた不便さや困難さを発表し、クラス内で共有する。共有内容から対策したい共通課題を見つける。この際、受講者数、興味のある課題内容等の観点から、場合によってグループ分けをおこなう。各グループごとに、興味のある課題に対して解決策を検討し、解決に向けて行動する。また、視覚障がい者の歩行時に重要なオリエンテーションとモビリティについて学習する。触図について理解を深める。単独歩行時の手がかりとストレスについても理解を深める。	視覚対象 保健6H480(情報)と合同
	VNO21	情報アクセシビリティ	2	1	必修	2	水1 (春)231	宮城愛美	視覚障害がもたらす最も深刻な問題は、情報アクセスの困難や不便である。社会の情報化が進展するなかで、視覚障害者の情報アクセシビリティを向上させるための様々な取り組みが行われているが、その変遷や現状を多面的に学び、アクセス支援技術の研究開発と普及の動向を総合的に知る。	視覚対象 保健9H130(情報)と合同
	VNO31	情報アクセシビリティ演習	1	1	必修	2	水2 (春)231	宮城愛美	視覚障害者の情報アクセシビリティの向上を図るには、情報を発信する側と情報にアクセスする当事者側の双方の対応力が必要である。本演習では、当事者側の対応力の向上を目指し、情報アクセスにおける障壁の実際を理解したうえで、その軽減に役立つ機器や技術の活用法を実践的に習得する。	視覚対象 保健9H140(情報)と合同
	VNO43	障害者サポート技法	2	3	選択必修	2		宮城愛美	視覚障害者のICT 利用を促進するには、当事者が利用を開始し継続するための指導や支援が欠かせない。本講義では、視覚障害者が使用する支援機器や機能について学修し、視覚障害者にICT 機器の活用法を指導・支援するために必要な知識や技能を実践的に習得する。	視覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報保障工学科目 (視覚障害系)	VN053	アクセシブルドキュメント	2	3	選択必修	2		金堀利洋 宮城愛美	主に視覚障害者にとって情報の取得が難しい、印刷文書から情報を取得できる様に加工する技術の習得と、情報取得が容易な、アクセシブルな形式で文書を作成するための様々な書式とその生成方法について学修し、自らの情報アクセス技術の向上だけでなく、アクセシブルな文書を作成と、その必要性を啓発していく一助とする。	視覚対象 令和8年度開講せず
	VN063	アクセシブルモデリング	2	4	選択	1		金堀利洋	3Dプリンターの仕組みを理解し、3Dモデルを作成する技術を学ぶ。また、形を触って理解し、自ら立体物を想像・創造する力、触形について学ぶことで、支援技術への応用だけでなく、アートによって人生を豊かにする視点も身につける。	視覚対象 令和8年度開講せず
	VN073	音声ユーザインタフェース	2	4	選択	通年		鶴見昌代	音声ユーザインタフェースに関連する基本的な事項および音声ユーザインタフェースを設計するための方法を学びます。	視覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
(6) 情報科学系科目

	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報保障工学科目（聴覚障害系）	H0012	支援技術学論	2	2	必修	1	火3 (天)507	河野純大 劉 賢国 下笠賢二 若月大輔 加藤伸子 山脇博紀 皆川洋喜 三好茂樹 櫻庭晶子 伊藤三千代 梅本舞子	この授業では、障害者等の生活において支援技術が関わる範囲について知り、幅広い支援技術の実際・実践を知ることを通し、情報保障工学、福祉機器工学、福祉住環境学、アクセシブルデザイン学の領域に関する基本的な知識を習得する。また、支援や支援技術を概観できる能力を育成した上で、学んだ支援技術に関して改善提案を考えるなど理解を深化させる。	聴覚対象 産業SE603、 SF493、 SG483、 SJ663「支援技術学論・演習A」と合同
	H0022	支援技術学演習	1	2	必修	1	火4 (天)507	河野純大 劉 賢国 下笠賢二 若月大輔 加藤伸子 山脇博紀 皆川洋喜 三好茂樹 今井 計 伊藤三千代 梅本舞子	この授業では、障害者等の生活において支援技術が関わる範囲について知り、幅広い支援技術の実際・実践を知ることを通し、情報保障工学、福祉機器工学、福祉住環境学、アクセシブルデザイン学の領域に関する基本的な知識を実践的に習得する。また、支援や支援技術を概観できる能力を育成した上で、学んだ支援技術に関して改善提案を考えることなどについて、演習を通して実践し、理解を深化させる。	聴覚対象 産業SE603、 SF493、 SG483、 SJ663「支援技術学論・演習A」と合同
	H0033	情報保障技術学・演習	3	3	選択	2		若月大輔 加藤伸子 菊地浩平 白石優旗 安 啓一	聴覚障害に関連した基礎的な情報保障技術について学習する。ろう・難聴者の情報保障として一般的な音声認識を含めた文字通訳の評価、手話映像の可読性に加え、近年、課題となっているオンラインコミュニケーション時の配慮についての課題について学び、演習を通して理解を深める。特に、演習では、現状の情報保障について評価を行い、評価結果の発表と議論を行う。こうした一連の授業を通して、情報保障を適切に活用し、さらに課題の発見し、改善方法を提案する力を身につけることを目標とする。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (6) 情報科学系科目

	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
情報保障工学科目 (聴覚障害系)	H0043	Web デザイン論	2	3	選択	1		西岡仁也	本授業では、伝わるWeb デザインを念頭に、コーディングの基礎からサイト設計および、今日的な実装方法を身につける。まず、HTML、CSS、Javascript 等のコーディングに触れ、Web デザインに求められるスキルを通じて、Web の基本的な仕組みとインタラクションを理解する。続けてサイトの計画立案からワイヤーフレームの作成、インタラクションの設計、素材の作成を行う。このときプレインストーミングやディスカッションを通じて、企画の提案における思考の可視化、共有、整理を行う。そして、Figma やSTUDIO などのノーコードツールも活用し実装する。その際、華美ではあるが伝わりにくいデザインにならないよう、Web におけるタイポグラフィや配色やレイアウトや動きについて基本的なグラフィックデザインについて、課題を通じて統合的なデザインの展開を試みる。これらにより、サイト設計から制作、運用まで一貫した理念に基づいたWeb デザインを学習する。	聴覚対象 令和8年度開講 せず
	H0053	Web デザイン演習	1	3	選択	1		西岡仁也	本授業では、UX を含めた今日的なWeb デザインの知識、サイトの実施方法に関する技術、グラフィックデザインの基本的な考え方について講義を行う。最新の技術の状況について事例を上げて説明する。これにより現在Web デザインに求められるスキルや、デザインの役割を明らかにする。その際、Web サイトにおけるUX について、サイトを知り、到達し、使用し、忘れるまでの大きな視点から、UI レベルまで包括的に学ぶ。具体的には、デバイスごとの表示の傾向や、レスポンシブなデザインのあり方、シグニファイアとUI の関係など、使う人へストレスを与えないインタラクションや情報の表示方法について事例と対応方法を学ぶ。そのほか、WEB サイトにおけるタイポグラフィ、配色、レイアウト、動きの効果など読み取りやすく伝わりやすいデザインの方法論について説明する。加えて、読み上げや多言語への対応などを含め、内容が正しく伝わるデザインについて学習する。	聴覚対象 令和8年度開講 せず
	H0063	デジタル画像処理	2	3・4	選択	2		若月大輔	写真加工アプリや、自動運転技術、さらに画像認識などのAI 技術の基礎の1つである、デジタル画像処理について学びます。まず、人間が画像を理解するしくみについて触れ、次に、デジタル画像の生成方法や表現方法について学び、さらに、画像処理の基礎的な方法について理解を深めていきます。具体的には、デジタル画像の保存形式、階調処理、ディザ、空間フィルタ、画像解析、画像入力・表示機器などについて学び、デジタル画像処理の理解を深める。	聴覚対象 令和8年度開講 せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VPO14	共生社会演習 1	1	3	必修	1		武田直樹 磯田恭子 伊藤和之	この授業では、共生社会創成プロジェクト実習Aでの学習内容を参考に、視覚障害／聴覚障害の特徴、学修や生活における困難や工夫、相互の有効なコミュニケーション手段や情報の提示方法等の伝達方法を情報科学と障害社会学、双方の観点から検討する。検討に基づいた方法で発表会を行い、自らの障害、及び、相互の障害について説明する。実施後は今後の課題及び解決策について、グループごとにレポートにまとめる。 自らの障害を客観的に捉えて伝える力を身に付けるとともに、他障害のある人に対する理解を深め、多様性社会への理解と共生について考える力を身に付ける。共生社会創成プロジェクト実習Aで学んだことの理解を深化し、共生社会創成プロジェクト実習Bに向けた取組目標をもつ。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HPO24	共生社会演習 1	1	3	必修	1		武田直樹 磯田恭子 伊藤和之	この授業では、共生社会創成プロジェクト実習Aでの学習内容を参考に、視覚障害／聴覚障害の特徴、学修や生活における困難や工夫、相互の有効なコミュニケーション手段や情報の提示方法等の伝達方法を情報科学と障害社会学、双方の観点から検討する。検討に基づいた方法で発表会を行い、自らの障害、及び、相互の障害について説明する。実施後は今後の課題及び解決策について、グループごとにレポートにまとめる。 自らの障害を客観的に捉えて伝える力を身に付けるとともに、他障害のある人に対する理解を深め、多様性社会への理解と共生について考える力を身に付ける。共生社会創成プロジェクト実習Aで学んだことの理解を深化し、共生社会創成プロジェクト実習Bに向けた取組目標をもつ。 武田が主担当となり全体の進行管理を行う。磯田と伊藤は副担当として情報科学と障害社会学の理解を深める観点から指導する。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VPO34	共生社会演習2	1	3	必修	2		武田直樹 向後佑香 伊藤和之 笹目友香	この授業では、共生社会創成プロジェクト実習Bにおいて各自が感じた課題を共有し、それぞれについて障害社会学・情報科学的観点から分析し、どのような対策があるのかを議論する。また、そのような議論を通して、多様な立場にある人々が協働する際に生じる摩擦の解決や相互理解、他者との連携による共生社会創成の推進手法について議論する。関連する文献購読を行い、理解を深化させる。共生社会創成プロジェクト実習A・Bでの成果と課題を基盤に、これまで学修を進めてきた障害社会学分野、情報科学分野の知識と理解を発酵させるプロセスとなる。授業における議論を通し、共生社会を創成する方法について自分なりの理解や取組目標をたて、共生社会創成プロジェクト実習Cに向けた企画案を準備する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HPO44	共生社会演習2	1	3	必修	2		武田直樹 向後佑香 伊藤和之 笹目友香	この授業では、共生社会創成プロジェクト実習Bにおいて各自が感じた課題を共有し、それぞれについて障害社会学・情報科学的観点から分析し、どのような対策があるのかを議論する。また、そのような議論を通して、多様な立場にある人々が協働する際に生じる摩擦の解決や相互理解、他者との連携による共生社会創成の推進手法について議論する。関連する文献購読を行い、理解を深化させる。共生社会創成プロジェクト実習A・Bでの成果と課題を基盤に、これまで学修を進めてきた障害社会学分野、情報科学分野の知識と理解を発酵させるプロセスとなる。授業における議論を通し、共生社会を創成する方法について自分なりの理解や取組目標をたて、共生社会創成プロジェクト実習Cに向けた企画案を準備する。 武田が主担当となりこれまでの実習演習、実習Cへの接続を意識した進行管理を行う。向後・伊藤は副担当として情報科学と障害社会学に関する学生の理解度を確認し問いを深める方向で指導する。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VP054	共生社会創成プロジェクト実習A	1	2	必修	2	金4 (春)316	武田直樹 萩原彩子 嶋 俊樹	この授業では、学生が主体となって、自らが関心のあるロールモデルを選定し、情報収集する。収集した情報を分析した上でインタビュー調査の計画、実施、分析を行う。その内容について発表し議論することで、情報収集、分析、計画立案、報告に関するスキル習得を目指す。また、各界で活躍する視覚障害者・聴覚障害者の生き方を知ることを通し、情報科学と障害社会学の知識を融合させ、社会で生かすために必要な力、素養を学ぶ。 グループで情報収集やインタビュー調査に取り組むことを通し、情報収集力、他者との協働作業遂行力、依頼対象者への連絡調整や聴取技術、報告会企画等に関する実践力を修得する。	視覚対象 HP064と合同
	HP064	共生社会創成プロジェクト実習A	1	2	必修	2	金4 (春)316	武田直樹 萩原彩子 嶋 俊樹	この授業では、学生が主体となって、自らが関心のあるロールモデルを選定し、情報収集する。収集した情報を分析した上でインタビュー調査の計画、実施、分析を行う。その内容について発表し議論することで、情報収集、分析、計画立案、報告に関するスキル習得を目指す。また、各界で活躍する視覚障害者・聴覚障害者の生き方を知ることを通し、情報科学と障害社会学の知識を融合させ、社会で生かすために必要な力、素養を学ぶ。 グループで情報収集やインタビュー調査に取り組むことを通し、情報収集力、他者との協働作業遂行力、依頼対象者への連絡調整や聴取技術、報告会企画等に関する実践力を修得する。 武田が主担当となりインタビュー調査実習としての指導を行う。萩原と嶋は副担当として情報科学と障害社会学の理解を深める観点から指導する。	聴覚対象 VP054と合同

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VPO74	共生社会創成プロジェクト実習B	1	3	必修	1		武田直樹 中島亜紀子 青木千帆子	この授業では、他大学等の学生と合同で時事的な課題や社会的な課題に取り組む課題解決型プロジェクトを集中形式で開催する。参加に当たっては、演習1で検討した方法に基づき、参加に際しての工夫、相互の有効なコミュニケーション手段や情報の提示方法等を他大学等の参加者に伝える。その上で、障害社会学分野、情報科学分野の知識を活用し、課題解決型プロジェクトに取り組む。他大学の学生との交流を通し、他大学に所属する他のマイノリティに対する理解を深めるだけでなく、自らの多様性社会への理解と共生について考える力を身に付ける。障害社会学分野、情報科学分野の知識を統合して活用する実践経験を積む。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HP084	共生社会創成プロジェクト実習B	1	3	必修	1		武田直樹 中島亜紀子 青木千帆子	この授業では、他大学等の学生と合同で時事的な課題や社会的な課題に取り組む課題解決型プロジェクトを集中形式で開催する。参加に当たっては、演習1で検討した方法に基づき、参加に際しての工夫、相互の有効なコミュニケーション手段や情報の提示方法等を他大学等の参加者に伝える。その上で、障害社会学分野、情報科学分野の知識を活用し、課題解決型プロジェクトに取り組む。他大学の学生との交流を通し、他大学に所属する他のマイノリティに対する理解を深めるだけでなく、自らの多様性社会への理解と共生について考える力を身に付ける。障害社会学分野、情報科学分野の知識を統合して活用する実践経験を積む。 武田が主担当となりPBLとしての授業管理を行う。中島と青木は副担当として情報科学と障害社会学の理解を深める観点から指導する。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VP094	共生社会創成プロジェクト実習C	2	3	必修	2		武田直樹 向後佑香 宮城愛美	この実習では、共生社会創成プロジェクトの最終科目として、実習先の状況に合わせた、自らを含む多様な人々に関する理解を促進するためのワークショップ等を企画立案・実施する。実習の現場は、本学部の教育理念に賛同し関与を表明する事業者（例えば、つくばエクスプレス、つくば市、気象庁等）である。 実習先の事業者と協働してワークショップ等を企画立案・実施することを通して、異なる立場にある人々が協働する際に生じる摩擦の解決力や相互理解と、他者との連携による共生社会創成の推進手法について理解を深め、社会に向けた発信力を養う。 武田・向後・宮城の全員が主担当となり実習期間中の巡回指導、終了後の事後指導を行う。各自の専門を基に情報科学と障害社会学の理解を深める観点から指導する。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HP104	共生社会創成プロジェクト実習C	2	3	必修	2		武田直樹 向後佑香 宮城愛美	この実習では、共生社会創成プロジェクトの最終科目として、実習先の状況に合わせた、自らを含む多様な人々に関する理解を促進するためのワークショップ等を企画立案・実施する。実習の現場は、本学部の教育理念に賛同し関与を表明する事業者（例えば、つくばエクスプレス、つくば市、気象庁等）である。 実習先の事業者と協働してワークショップ等を企画立案・実施することを通して、異なる立場にある人々が協働する際に生じる摩擦の解決力や相互理解と、他者との連携による共生社会創成の推進手法について理解を深め、社会に向けた発信力を養う。武田・向後・宮城の全員が主担当となり実習期間中の巡回指導、終了後の事後指導を行う。各自の専門を基に情報科学と障害社会学の理解を深める観点から指導する。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VP114	共生社会創成特別研究1	3	4	必修	1		各指導教員	3年次までの学修で培った共生社会創成に関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、情報工学と障害社会学の知識を融合させ、情報保障に関する社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野について文系教員群・理系教員群として事前に提示し、学生は主指導教員・副指導教員を文系・理系と組み合わせるように選び、指導を受ける。 これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論のほか、先行研究を踏まえた、自らの問題意識に基づいたテーマの設定、データの収集と分析、考察を行い、その成果を学士論文としてまとめる。	視覚対象 令和8年度開講せず
	HP124	共生社会創成特別研究1	3	4	必修	1		各指導教員	3年次までの学修で培った共生社会創成に関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、情報工学と障害社会学の知識を融合させ、情報保障に関する社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野について文系教員群・理系教員群として事前に提示し、学生は主指導教員・副指導教員を文系・理系と組み合わせるように選び、指導を受ける。 これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論のほか、先行研究を踏まえた、自らの問題意識に基づいたテーマの設定、データの収集と分析、考察を行い、その成果を学士論文としてまとめる。	聴覚対象 令和8年度開講せず

専門教育系科目
 (7) 共生社会創成プロジェクト系科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共生社会創成プロジェクト系科目	VP134	共生社会創成特別研究2	3	4	必修	2		各指導教員	<p>3年次までの学修で培った共生社会創成に関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、情報工学と障害社会学の知識を融合させ、情報保障に関する社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野について文系教員群・理系教員群として事前に提示し、学生は主指導教員・副指導教員を文系・理系と組み合わせるようを選び、指導を受ける。</p> <p>これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論のほか、先行研究を踏まえた、自らの問題意識に基づいたテーマの設定、データの収集と分析、考察を行い、その成果を学士論文としてまとめる。</p>	<p>視覚対象</p> <p>令和8年度開講せず</p>
	HP144	共生社会創成特別研究2	3	4	必修	2		各指導教員	<p>3年次までの学修で培った共生社会創成に関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、情報工学と障害社会学の知識を融合させ、情報保障に関する社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野について文系教員群・理系教員群として事前に提示し、学生は主指導教員・副指導教員を文系・理系と組み合わせるようを選び、指導を受ける。</p> <p>これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論のほか、先行研究を踏まえた、自らの問題意識に基づいたテーマの設定、データの収集と分析、考察を行い、その成果を学士論文としてまとめる。</p>	<p>聴覚対象</p> <p>令和8年度開講せず</p>